

1) 鳥類

現地調査により確認された鳥類のうち、表 8-1-4-62 に示すとおり 33 種の鳥類が重要な種に選定された。重要な種の確認状況は表 8-1-4-63 に、確認位置（一般鳥類調査）は図 8-1-4-8 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-62 現地調査による重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域			重要種選定基準										
				内		外	I	II	III	IV	V	VI			VII		
				変更区域								全県評価	地帯別評価				
				内	外								低山帯	台地・ 丘陵帯			
1	カモ	カモ	オシドリ			●						DD	EN(繁)・ VU(越)	EN(繁)・ VU(越)	VU(越)		
2	ハト	ハト	アオバト	●	●								RT(繁)	LP(繁)			
3	ペリカン	サギ	ミゾゴイ		●	●						VU	EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)		
4	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	●	●								LP(繁)	LP(繁)			
5			ホトトギス	●	●	●							RT(繁)	LP(繁)			
6			ツツドリ			●								LP(繁)	LP(繁)		
7	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			●						NT	VU(繁)	VU(繁)	VU(繁)		
8	タカ	タカ	ハチクマ	●	●	●								EN(繁)	DD(繁)	DD(繁)	
9			トビ	●	●	●								DD(繁)		DD(繁)	
10			ツミ	●	●	●								NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)	
11			ハイタカ	●	●	●							NT	DD(繁)・ NT2(越)	DD (繁・越)	NT2(越)	
12			オオタカ	●	●	●							NT	VU(繁・越)	VU(繁)	VU(繁)・ NT2(越)	
13			サシバ	●	●	●							VU	CR(繁)	VU(繁)	CR(繁)	
14			ノスリ	●	●	●								NT2(繁・ 越)	NT2(繁)	DD(繁)・ NT2(越)	
15	フクロウ	フクロウ	フクロウ	●		●							RT(繁)・ NT2(越)	DD(繁)	VU(繁)・ NT2(越)		
16			アオバズク			●							NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)		
17	アホウドリ	カワセミ	カワセミ			●							RT(繁)				
18	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	●	●	●							RT(繁)				
19	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	●						国 内	VU	VU(越)			VU(越)		
20	スズメ	カサギヒタキ	サンコウチョウ	●	●	●							EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)		
21		シジュウカラ	ヤマガラ	●	●	●							RT(繁)		NT2(繁)		
22			ヒガラ		●	●							RT(繁)		VU(繁)		
23		ウグイス	ウグイス	●	●	●								RT(繁)	NT2(繁)		
24			ヤブサメ	●	●	●								NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)	
25		ムシクイ	オオムシクイ	●		●						DD					
26		ヒタキ	トラツグミ			●								NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)	
27			ルリビタキ	●		●								RT(越)			
28			キビタキ	●	●	●								RT(繁)		NT1(繁)	
29			オオルリ			●								RT(繁)		CR(繁)	
30		アトリ	ベニマシコ	●	●									RT(越)		NT2(越)	
31		ホオジロ	ホオジロ	●	●	●								RT(繁)		NT2(繁)	
32			アオジ	●	●	●								DD(繁)			
33			クロジ			●								RT(越)		NT2(越)	
合計	11 目		17 科	33 種	23 種	21 種	29 種	0 種	0 種	0 種	1 種	8 種	32 種	19 種	23 種	0 種	

注1：分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（2012年、日本鳥学会）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

- I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物
天：天然記念物
- IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）
国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、国内II：特定第二種国内希少野生動植物種
- V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、
VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）における記載種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、
VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、
LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧
（繁）：繁殖期 （越）：越冬期
- VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種
●：希少野生動植物種

表 8-1-4-63(1) 重要な種の確認状況（鳥類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	変更区域			
	内	外		
オンドリ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された（目撃）。確認環境は、開放水域（止水）であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。
アオバト	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・秋季、冬季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域内で6例（変更区域内で3例）が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.05であった。
ミゾゴイ		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された（囀り）。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・「生態系」において実施した営巣地確認調査（令和2年12月）において、合計4つの巣（古巣含む）が確認された。 （「8-1-6 生態系（1）地域を特徴づける生態系 1）調査結果の概要 ②複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息若しくは生育環境の状況（b）注目種に係る調査結果の概要 c）特殊性注目種（ミゾゴイ）（ウ）現地調査」参照）
ジュウイチ	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域内で2例（変更区域内で1例）が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。
ホトトギス	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で7例（変更区域内で4例）、合計10例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.08であった。
ツツドリ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。
ヨタカ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された（目撃）。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。

表 8-1-4-63(2) 重要な種の確認状況（鳥類）

種名	対象事業実施区域			確認状況
	内		外	
	変更区域			
内	外			
ハチクマ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 57 例が確認された。 1 ペアの繁殖が確認され、巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。繁殖期には本種の営巣地が確認されなかったものの、その後非繁殖期（落葉期）に対象事業実施区域内（変更区域内）に本種が利用した可能性がある巣が確認された。
トビ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 秋季調査において、対象事業実施区域外で 1 例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 35 例が確認された。 繁殖に係る行動は確認されなかった。
ツミ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で 3 例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 44 例が確認された。 対象事業実施区域外で 1 ペアの繁殖が確認された。巣立ち後の幼鳥は確認されなかったものの、繁殖に成功したと考えられた。
ハイタカ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 冬季調査において、対象実施区域内で 1 例（変更区域内で 1 例）が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 13 例が確認された。 繁殖に係る行動は確認されなかった。
オオタカ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 6 例が確認された。 繁殖に係る行動（ディスプレイ飛翔）が確認されたが、繁殖は確認されなかった。
サシバ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖期調査において、対象事業実施区域外で 1 例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 359 例が確認された。 対象事業実施区域内で 2 ペア、対象事業実施区域外で 1 ペア、合計 3 ペアの繁殖が確認され、いずれのペアも巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。
ノスリ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で 2 例、対象事業実施区域内で 3 例（変更区域内で 1 例）、合計 5 例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 139 例が確認された。 対象事業実施区域内で 1 ペアの繁殖が確認されたものの、幼鳥の確認はなく、繁殖に途中失敗したと考えられた。
フクロウ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で 16 例、対象事業実施区域内で 1 例（変更区域内で 1 例）、合計 17 例が確認された（目撃及び囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 対象事業実施区域外で合計 1 ペアの繁殖が確認された。
アオバズク			●	<ul style="list-style-type: none"> 春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で 2 例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。

表 8-1-4-63(3) 重要な種の確認状況（鳥類）






種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	内	外		
カワセミ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された。確認環境は、開放水域（流水）であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・対象事業実施区域外で1つの巣及び繁殖が確認された。
アオゲラ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季、春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で5例、対象事業実施区域内で15例（変更区域内で7例）、合計20例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.05、針葉樹林で0.10であった。
ハヤブサ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内で3例が確認された。 ・繁殖に係る行動は確認されなかった。
サンコウチョウ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で8例、対象事業実施区域内で7例（変更区域内で3例）、合計15例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.04であった。
ヤマガラ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で44例、対象事業実施区域内で88例（変更区域内で55例）、合計132例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びそれらの低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.79、針葉樹林で0.89であった。
ヒガラ		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で2例、合計3例が確認された（鳴き声）。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は針葉樹林で0.07であった。
ウグイス	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で76例（変更区域内48例）、合計103例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、笹原及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.91、針葉樹林で0.27、伐採跡地・竹林で1.59、草地で0.48であった。
ヤブサメ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で10例（変更区域内で7例）、合計12例が確認された（地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.04、針葉樹林で0.21、伐採跡地・竹林で0.53であった。
オオムシクイ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（変更区域内で1例）、合計2例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。
トラツグミ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。
ルリビタキ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で5例（変更区域内で5例）、合計8例が確認された（目撃及び地鳴き）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びその低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.18、針葉樹林で0.12であった。

表 8-1-4-63(4) 重要な種の確認状況（鳥類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	内	外		
キビタキ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季、春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で16例、対象事業実施区域内で27例（変更区域内で13例）、合計43例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.27、針葉樹林で0.20であった。
オオルリ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された（囀り）。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は針葉樹林で0.04であった。
ベニマンコ	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域内で8例（変更区域内で6例）が確認された（目撃及び地鳴き）。確認環境は、広葉樹林の低木林及び高茎草地であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は伐採跡地・竹林で0.80、草地で0.30であった。
ホオジロ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で60例（変更区域内で44例）、合計87例が確認された（目撃、地鳴き及び囀り）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、耕作地、果樹園及び人工構造物であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.12、伐採跡地・竹林で1.27、草地で1.52であった。
アオジ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季及び冬季調査において、対象事業実施区域外で26例、対象事業実施区域内で47例（変更区域内で35例）、合計73例が確認された（目撃及び地鳴き）。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、笹原及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度（個体/ha）は広葉樹林で0.61、針葉樹林で0.19、伐採跡地・竹林で5.58、草地で1.50であった。
クロジ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認された（目撃及び地鳴き）。確認環境は、針葉樹林の低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/haであった。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設  町村界
-  調査地域  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

オシドリ、アオバト、ミゾゴイ、ジュウイチ、ホトトギス、ツツドリ、ヨタカ





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m


図 8-1-4-8(1)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)



動植物保全の観点から 非公開




凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

 調査地域  変更区域

 営巣地



 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m


図 8-1-4-8(2)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハチクマ: 5月①・②)


動植物保全の観点から 非公開




凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

 調査地域  変更区域

 営巣地



 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m


図 8-1-4-8(3)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハチクマ: 6月)



動植物保全の観点から 非公開




凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

 調査地域  変更区域

 営巣地



 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m


図 8-1-4-8(4)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハチクマ:7月)



動植物保全の観点から 非公開




凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

 調査地域  変更区域

 営巣地



 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃




1:25,000

0 200 400 600 800 1,000
m

図 8-1-4-8(5)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハチクマ: 8月)




動植物保全の観点から 非公開

凡 例




 対象事業実施区域及び関連施設 - - - - - 町村界



 調査地域  変更区域

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(6)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(トビ:全確認月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m


図 8-1-4-8(7)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)(トビ)

動植物保全の観点から 非公開


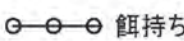

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

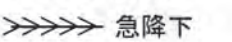

 調査地域  変更区域



 営巣地

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃





1:15,000

0 150 300 450 600 750
m


図 8-1-4-8(8)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ツミ:1月・3月)

動植物保全の観点から 非公開


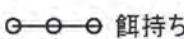

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界


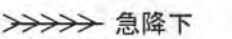

 調査地域  変更区域



 営巣地

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃
























1:15,000

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(9)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ツミ:6月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |








1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(10)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ツミ:7月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置




1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(11)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)(ツミ)


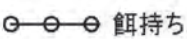

動植物保全の観点から 非公開

凡 例




 対象事業実施区域及び関連施設 - · · · · · 町村界



 調査地域  変更区域

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(12)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハイタカ:全確認月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置




1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(13)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)(ハイタカ)




動植物保全の観点から 非公開

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設 - - - - - 町村界

 調査地域  変更区域

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃




1:15,000

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(14)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(オオタカ:全確認月)

動植物保全の観点から 非公開


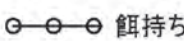

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設 - - - - - 町村界

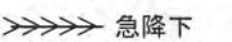
 調査地域  変更区域



 営巣地

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃




1:15,000

0 150 300 450 600 750
m


図 8-1-4-8(15)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(サシバ: 5月①)

動植物保全の観点から 非公開




凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設 - - - - - 町村界




 調査地域  変更区域



 営巣地

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃









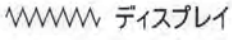

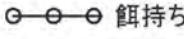



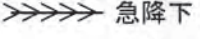








1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(16)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(サシバ: 5月②)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |
























1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(17)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(サシバ: 6月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |
























1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(18)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(サシバ: 7月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |








1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(19)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(サシバ: 8月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置
























1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(20)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)(サシバ)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |

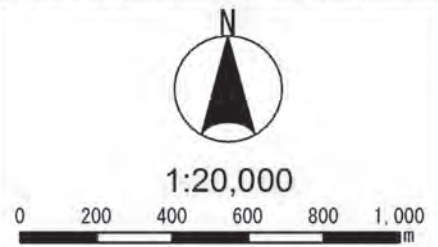








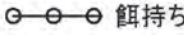














図 8-1-4-8(21)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 1月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |




1:15,000


0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(22)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 2月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設

 町村界




調査地域





変更区域





営巣地


 : 成鳥オス個体

 ディスプレイ

 ハンティング


 : 成鳥メス個体

 餌持ち

 とまり


 : 成鳥性不明個体


 探餌


 旋回上昇

 : 若鳥


 急降下

 停飛

 : 齢性不明個体

 攻撃

 : 幼鳥

 被攻撃




1:15,000


0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(23)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 3月)


動植物保全の観点から 非公開

凡 例


 対象事業実施区域及び関連施設


 町村界


 調査地域


 変更区域


 営巣地


 : 成鳥オス個体

 ディスプレイ

 ハンティング


 : 成鳥メス個体

 餌持ち

 とまり

 : 成鳥性不明個体


 探餌


 旋回上昇

 : 若鳥


 急降下

 停飛

 : 齢性不明個体

 攻撃

 : 幼鳥

 被攻撃











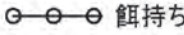












1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(24)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 5月①)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |









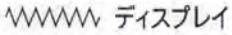

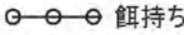



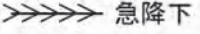








1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(25)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 5月②)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |

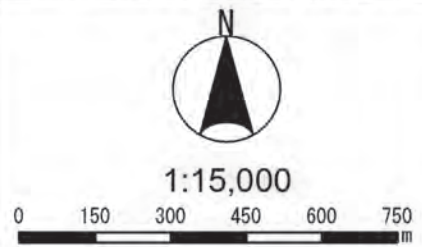























図 8-1-4-8(26)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 6月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 営巣地 | | |
|  | : 成鳥オス個体 |  | ディスプレイ |
|  | : 成鳥メス個体 |  | 餌持ち |
|  | : 成鳥性不明個体 |  | 探餌 |
|  | : 若鳥 |  | 急降下 |
|  | : 齢性不明個体 |  | 攻撃 |
|  | : 幼鳥 |  | 被攻撃 |
| | |  | ハンティング |
| | |  | とまり |
| | |  | 旋回上昇 |
| | |  | 停飛 |








1:15,000

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(27)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ノスリ: 8月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(28)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)(ノスリ)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

フクロウ、アオバズク、カワセミ、アオゲラ、サンコウチョウ





1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(29)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)




動植物保全の観点から 非公開

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界



 調査地域  変更区域

 : 成鳥オス個体  ディスプレイ  ハンティング

 : 成鳥メス個体  餌持ち  とまり

 : 成鳥性不明個体  探餌  旋回上昇

 : 若鳥  急降下  停飛

 : 齢性不明個体  攻撃

 : 幼鳥  被攻撃








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-8(30)
重要な種確認位置(猛禽類調査)
(ハヤブサ:全確認月)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

ヤマガラ、ヒガラ








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(31)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】
ウグイス、ヤブサメ








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(32)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  改変区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

オオムシクイ、トラツグミ、ルリビタキ、キビタキ、オオルシ、ベニマシコ




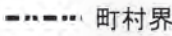



1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(33)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

ホオジロ




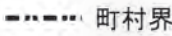



1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(34)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  鳥類 重要種確認位置

【本図の記載種】

アオジ、クロジ



1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-8(35)
重要な種確認位置
(一般鳥類調査)

ウ) 爬虫類

現地調査により確認された爬虫類のうち、表 8-1-4-64 に示すとおり 7 種の爬虫類が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-65 に、確認位置は図 8-1-4-9 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-64 現地調査による重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	対象偉業 実施区域		重要種選定基準										
				内		外	I	II	III	IV	V	VI			VII	
				変更区域								全県 評価	地帯別評価			
				内	外								低山帯	台地・ 丘陵帯		
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	●		●							NT2	NT2	NT2	
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●							RT			
3		ナミヘビ	ジムグリ	●		●							NT1	NT2	NT1	
4			アオダイショウ			●							NT2	NT2	NT2	
5			シマヘビ	●		●							VU	EN	EN	
6			ヤマカガシ		●	●							NT1	NT1	NT2	
7			クサリヘビ	ニホンマムシ			●						NT2	NT2	NT2	
合計	1 目	4 科	7 種	4 種	2 種	7 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	7 種	6 種	6 種	0 種	

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種


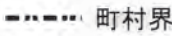



●：希少野生動植物種

表 8-1-4-65 重要な種の確認状況（爬虫類）

種名	対象事業実施区域			確認状況
	内		外	
	変更区域			
内	外			
ヒガシニホントカゲ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で12例、対象事業実施区域外で3例（変更区域内で3例）、合計15例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び人工構造物であった。
ニホンカナヘビ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で9例、対象事業実施区域内で6例（変更区域内で5例）、合計15例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地及び人工構造物であった。
ジムグリ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（変更区域内で1例）、合計2例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び低茎草地であった。
アオダイショウ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地及び低茎草地であった。
シマヘビ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（変更区域内で1例）、合計2例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。
ヤマカガシ		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で4例、対象事業実施区域内で1例、合計5例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び湿地・たまりであった。
ニホンマムシ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  改変区域
-  爬虫類 重要種確認位置



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-9

重要な種確認位置（爬虫類）

1) 両生類

現地調査により確認された両生類のうち、表 8-1-4-66 に示すとおり 6 種の両生類が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-67 に、確認位置は図 8-1-4-10 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-66 現地調査による重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		重要種選定基準										
				内			I	II	III	IV	V	VI			VII	
				改変区域								全県 評価	地帯別評価			
				内	外	外							低山帯	台地・ 丘陵帯		
1	有尾	ショウウオ	トウキョウサンショウウオ	●		●					国内II	VU	EN	EN	EN	
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	●							NT1	NT2	VU	
3		アカガエル	ニホンアカガエル			●							VU		VU	
4			ヤマアカガエル	●	●	●							NT2	NT2	NT1	
-			アカガエル属*	●		●							VU/NT2	/NT2	VU/NT1	
5			トウキョウダルマガエル			●						NT	NT1	NT1	NT1	
6		アカガエル	シュレーゲルアオガエル	●	●	●							NT2	NT2	NT2	
合計	2目	4科	6種	5種	3種	6種	0種	0種	0種	1種	2種	6種	5種	6種	0種	

注1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019年11月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種






注3：※について、アカガエル属は卵塊の確認であり、その確認状態からニホンアカガエル又はヤマアカガエルと考えられた。両種はいずれも重要種の選定基準VIにおける選定種であることから、ここでは重要な種として扱うこととし、その選定状況は「ニホンアカガエル/ヤマアカガエル」として標記した。

表 8-1-4-67 重要な種の確認状況（両生類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	内	外		
トウキョウサンショウウオ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例4個体、対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で1例7個体が確認された。 【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例8卵囊、1例3卵囊、5例2卵囊、対象事業実施区域内で1例1卵囊（変更区域内で1例1卵囊）が確認された。 ・確認環境は、細流、湿地・たまり及び水田であった。
アズマヒキガエル	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で10例11個体及び多数、対象事業実施区域内で4例15個体（変更区域内で3例12個体）が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で4例多数、対象事業実施区域内で1例20個体、4例多数（変更区域内で1例20個体、4例多数）が確認された。 【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で2例1卵塊、対象事業実施区域内で2例1卵塊（変更区域内で1例1卵塊）が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、開放水域（止水及び流水）、細流、湿地・たまり、泥地及び人工構造物であった。
ニホンアカガエル			●	<ul style="list-style-type: none"> ・早春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 【幼生】確認はなかった。 【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例1卵塊が確認された。 ・確認環境は、湿地・たまりであった。
ヤマアカガエル	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で7例8個体、対象事業実施区域内で9例9個体（変更区域内で5例5個体）が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例8個体（変更区域内で1例8個体）が確認された。 【卵塊・卵囊】確認はなかった。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低茎草地、開放水域（止水及び流水）及び湿地・たまりであった。
アカガエル属	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・早春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】確認はなかった。 【幼生】対象事業実施区域外で2例多数、1例50個体、対象事業実施区域内で2例多数（変更区域内で2例多数）が確認された。 【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例10卵塊、1例2卵塊、対象事業実施区域内で1例2卵塊、1例1卵塊（変更区域内で1例2卵塊、1例1卵塊）が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。
トウキョウダルマガエル			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 【幼生】確認はなかった。 【卵塊・卵囊】確認はなかった。 ・確認環境は、水田であった。
シュレーゲルアオガエル	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例6個体、対象事業実施区域内で6例13個体（変更区域内で5例11個体）が確認された。 【幼生】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。 【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で9例1卵塊、対象事業実施区域内で4例1卵塊、1例2卵塊（変更区域内で3例1卵塊、1例2卵塊）が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地、開放水域（止水）、湿地・たまり及び水田であった。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  両生類 重要種確認位置

【本図の記載種】
トウキョウサンショウウオ








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-10(1)
重要な種確認位置（両生類）

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  両生類 重要種確認位置

【本図の記載種】
アズマヒキガエル








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-10(2)
重要な種確認位置 (両生類)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  改変区域
-  両生類 重要種確認位置

【本図の記載種】

ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アカガエル属








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-10(3)
重要な種確認位置 (両生類)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  両生類 重要種確認位置

【本図の記載種】

トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル



1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-10(4)
重要な種確認位置 (両生類)

わ) 昆虫類

現地調査により確認された昆虫類のうち、表 8-1-4-68 に示すとおり 33 種が重要な種に選定された。現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-69 に、確認位置は図 8-1-4-11 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-68 現地調査による重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		重要種選定基準												
				内		外	I	II	III	IV	V	VI			VII			
				改変区域								全県 評価	地帯別評価					
				内	外								低山帯	台地・ 丘陵帯				
1	トンボ	ヤンマ	サラサヤンマ	●		●							NT2		NT2			
2		サナエトンボ	ヤマサナエ		●								NT2	NT2	NT2			
3		トンボ	ハラビロトンボ	●		●							NT2		NT2			
4	バッタ	ササキリモドキ	ヒメツユムシ	●	●								NT1	NT1	NT1			
5			ササキリモドキ	●									NT1	NT1	NT1			
6		キリギリス	ヒガシキリギリス	●		●							NT1	NT2	NT2			
7			ヒサゴクサキリ	●									DD					
8		バッタ	ナキイナゴ	●									NT1	NT1	VU			
9			ヒナバッタ			●							NT1	NT1				
10			アオフキバッタ	●	●									RT		NT2		
11	ハネナガイナゴ					●							NT1		NT2			
12	カメムシ	セミ	ハルゼミ			●							NT1	NT1	NT1			
13		ハネカウカ	キスジハネビロウンカ		●								NT1	NT1	NT1			
14		アメンボ	オオアメンボ	●		●							NT2	NT2	NT2			
15		ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ	●									NT1	NT1	NT1			
16			アズキヘリカメムシ	●									NT1	NT1	NT1			
17	アミカゲ	ツノトンボ	キバネツノトンボ	●									CR	CR	CR			
18	コウ	オサムシ	ヒトツメアオゴミムシ	●								NT	NT2		NT2			
19	チュウ	ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ	●									NT	EN	EN	EN		
20		ガムシ	コガムシ	●									DD					
21		ホタル	ゲンジボタル			●								VU	VU	VU		
22			ヘイケボタル			●								NT1	NT1	NT1		
23			オキナホシ	トキヨウムシ		●								NT1		NT1		
24	ハチ	スズメバチ	モンズズメバチ		●								DD					
25	ハエ	ハナアブ	アホバカアブ			●							NT1	NT1	NT1			
26	トビケラ	アホバカ	コバントビケラ		●								NT	NT2	NT2			
27	チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ			●							NT1		NT1			
28			ギンイチモンジセセリ	●									NT	NT2	CR	NT2		
29		シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ			●								VU		NT1		
30		タテハチョウ	クモガタヒョウモン	●										NT2	NT2	NT2		
31			アサマイチモンジ			●								NT2	VU	NT2		
32			ミスジチョウ	●											NT2		VU	
33			オオムラサキ	●	●	●									NT	VU	NT1	
合計	9 目	22 科	33 種	19 種	8 種	14 種	0 種	0 種	0 種	0 種	6 種	31 種	20 種	29 種	0 種			

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編II」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

- IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行)
 国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内Ⅰ：特定第一種国内希少野生動植物種、国内Ⅱ：特定第二種国内希少野生動植物種
- V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省)における選定種
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
 VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)における記載種
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
 VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、
 LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧
- VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000年、埼玉県)に基づく希少野生動植物種
 ●：希少野生動植物種

表 8-1-4-69(1) 重要な種の確認状況(昆虫類)

種名	対象事業実施区域			確認状況
	内		外	
	変更区域			
	内	外		
サラサヤンマ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体、対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。
ヤマサナエ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。
ハラビロトンボ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で6例28個体、対象事業実施区域内で5例13個体(変更区域内で5例13個体)が確認された。 ・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び湿地・たまりであった。
ヒメツユムシ	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で3例3個体(変更区域内で2例2個体)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。
ササキリモドキ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。
ヒガシキリギリス	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で6例18個体が確認された。 【幼虫】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例2個体(変更区域内で1例2個体)が確認された。 ・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び耕作地であった。
ヒサゴクサキリ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された。 ・確認環境は、竹林であった。

表 8-1-4-69(2) 重要な種の確認状況（昆虫類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	内	外		
ナキイナゴ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 ・ 確認環境は、低茎草地であった。
ヒナバッタ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
アオフキバッタ	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
ハネナガイナゴ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で3例3個体が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地、低茎草地であった。
ハルゼミ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で2例2個体が確認された。 ・ 確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。
キスジハネビロウンカ		●		<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された（ライトトラップ）。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
オオアメンボ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例13個体及び多数、対象事業実施区域内で4例13個体及び多数（変更区域内で4例13個体及び多数）が確認された。 ・ 確認環境は、開放水域（止水及び流水）であった。
ヒメトゲヘリカメムシ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 ・ 確認環境は、低茎草地であった。
アズキヘリカメムシ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 【幼虫】確認はなかった。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
キバネツノトンボ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例4個体（変更区域内で2例4個体）が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。

表 8-1-4-69(3) 重要な種の確認状況（昆虫類）






種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	内	外		
ヒトツメアオゴミムシ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。
ケシゲンゴロウ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された(ライトトラップ)。 ・確認環境は、高茎草地であった。
コガムシ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された(ライトトラップ)。 ・確認環境は、高茎草地であった。
ゲンジボタル			●	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で17例73個体が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地、竹林、開放水域(流水)及び水田であった。
ヘイケボタル			●	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で12例90個体が確認された。 ・確認環境は、低茎草地、開放水域(流水)及び耕作地であった。
トウキョウムネビロオオキノコムシ		●		<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された(ライトトラップ)。 ・確認環境は、針葉樹林であった。
モンスズメバチ		●		<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された(ベイトトラップ)。 ・確認環境は、針葉樹林であった。
アシボソミケハラブトハナアブ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・確認環境は、低茎草地であった。
コバントビケラ		●		<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体が確認された。 ・確認環境は、針葉樹林及び高茎草地であった。
ミヤマセセリ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・確認環境は、低茎草地であった。

表 8-1-4-69(4) 重要な種の確認状況（昆虫類）

種名	対象事業実施区域			確認状況
	内		外	
	変更区域			
内	外			
ギンイチモンジセセリ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
ウラゴマダラシジミ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・ 確認環境は、広葉樹林であった。
クモガタヒョウモン	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体（変更区域内で2例2個体）が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
アサマイチモンジ			●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・ 確認環境は、高茎草地であった。
ミスジチョウ	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された。 ・ 確認環境は、人工構造物であった。
オオムラサキ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で2例2個体、対象事業実施区域内で3例3個体（変更区域内で2例2個体）が確認された。 【幼虫】対象事業実施区域外で1例5個体が確認された。 ・ 確認環境は、広葉樹林であった。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  昆虫類 重要種確認位置

【本図の記載種】

サラサヤンマ、ヤマサナエ、ハラビロトンボ、ヒメツユムシ、ササキリモドキ、ヒガシキリギリス、ヒサゴクサキリ、ナキイナゴ、ヒナバタ、アオフキバタ、ハネナガイナゴ








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-11(1)
昆虫類 重要種確認位置

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  昆虫類 重要種確認位置

【本図の記載種】

ハルゼミ、キスジハネナガウンカ、オオアメンボ、ヒメトゲヘリカメムシ、アズキヘリカメムシ、キバネツノトンボ、ヒトツメアオゴミムシ、ケシゲンゴロウ、コガムシ、ゲンジボタル、ハイケボタル、トウキョウムネビロオオキノコムシ








1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-9(2)
昆虫類 重要種確認位置
(カメムシ目、アミメカゲロウ目、コウチュウ目)

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  昆虫類 重要種確認位置

【本図の記載種】

モンスズメバチ、アシボソミケハラブトハナアブ、コバントビケラ、ミヤマセセリ、ギンイチモンジセセリ、ウラゴマダラシジミ、クモガタヒョウモン、アサマイチモンジ、ミスジチョウ、オオムラサキ



1:17,500

0 150 300 450 600 750
m

図 8-1-4-9(3)
昆虫類 重要種確認位置
(ハチ目、トビケラ目、チョウ目)

か) 魚類

現地調査により確認された魚類のうち、表 8-1-4-70 に示すとおり 4 種の魚類が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-71 に、確認位置は図 8-1-4-12 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-70 現地調査による重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		重要種選定基準								
				内		外	I	II	III	IV	V	VI	VII	
				変更区域	内									外
1	コイ	ドジョウ	ドジョウ			●						NT		
2		フトドジョウ	ホトケドジョウ			●						EN	CR	
3	ナマズ	ギギ	ギバチ			●						VU		
4	スズキ	ハゼ	ムサシノジュズカケハゼ			●						EN		
合計	3 目	4 科	4 種	0 種	0 種	4 種	0 種	0 種	0 種	0 種	4 種	1 種	0 種	

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。
 注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。







- I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物
 天：天然記念物
- IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）
 国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、
 国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種
- V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、
 VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（2018 年、埼玉県）における記載種
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、
 VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、
 LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧
- VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種
 ●：希少野生動植物種

表 8-1-4-71 重要な種の確認状況（魚類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	変更区域	内		
ドジョウ			●	・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 22 個体が確認された。
ホトケドジョウ			●	・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 27 個体が確認された。
ギバチ			●	・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 10 個体が確認された。
ムサシノジュズカケハゼ			●	・秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 1 個体が確認された。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 変更区域 |
|  | 魚類 重要種確認位置 |  | 河川 |



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-12

魚類 重要種確認位置

キ) 底生動物

現地調査により確認された底生動物のうち、表 8-1-4-72 に示すとおり 13 種の底生動物が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-73 に、確認位置は図 8-1-4-13 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-72 現地調査による重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		重要な種の選定基準											
				内		外	I	II	III	IV	V	VI			VII		
				変更区域								全県評価	地帯別評価				
				内	外								低山帯	台地・丘陵帯			
1	三岐腸	サカアタマズムシ	ナミウズムシ			●							LP		LP		
2	エビ	ヌマエビ	ヌカエビ			●							NT2				
3		サワガニ	サワガニ			●							NT2				
4	トンボ (蜻蛉)	ヤンマ	コシボソヤンマ			●							NT1	NT1	NT1		
5		サナエ	ヤマサナエ			●							NT2	NT2	NT2		
6		トンボ	アオサナエ				●							NT1		NT1	
7			ヒメサナエ				●							NT1	NT1	NT1	
8	カムシ(半翅)	アメンボ	オオアメンボ			●							NT2	NT2	NT2		
9	トビケラ	カガレトビケラ	ムカガレトビケラ			●							NT	NT2	NT2		
10	(毛翅)	アシエトビケラ	コバントビケラ			●							NT	NT2	NT2		
11		ホソバトビケラ	ホソバトビケラ			●							NT	NT1	NT1		
12	コウチュウ	ホタル	ゲンジボタル			●							VU	VU	VU		
13	(鞘翅)		ヘイケボタル				●							NT1	NT1	NT1	
合計	6 目	10 科	13 種	0 種	0 種	13 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	13 種	9 種	11 種	0 種	

注1：分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和元年、国土交通省）に準拠した。

注2：重要な種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種







●：希少野生動植物種

表 8-1-4-73 重要な種の確認状況（底生動物）

種名	対象事業実施区域			確認状況
	内		外	
	変更区域			
内	外			
ナミウズムシ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 16 個体が確認された。
ヌカエビ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 2 個体が確認された。
サワガニ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 11 個体が確認された。
コシボソヤンマ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 14 個体が確認された。
ヤマサナエ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 27 個体が確認された。
アオサナエ			●	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 12 個体が確認された。
ヒメサナエ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 3 個体が確認された。
オオアメンボ			●	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 5 個体が確認された。
ムナグロナガレトビケラ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 35 個体が確認された。
コバントビケラ			●	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 28 個体が確認された。
ホソバトビケラ			●	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 3 個体が確認された。
ゲンジボタル			●	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 2 個体が確認された。
ヘイケボタル			●	・早春季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 1 個体が確認された。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | | |
|---|----------------|---|------|
|  | 対象事業実施区域及び関連施設 |  | 町村界 |
|  | 調査地域 |  | 改変区域 |
|  | 底生動物 重要種確認位置 |  | 河川 |



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-13

重要な種確認位置（底生動物）

③ その他の予測・評価に必要な事項

(a) 広域的な動物相及び動物分布の状況

「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成12年3月、小川町）によると、小川町内では7目12科21種の哺乳類、16目37科84種の鳥類、1目6科11種の爬虫類、2目6科13種の両生類、12目257科2649種の昆虫類、6目14科33種の魚類等が確認されている。

(b) 過去の動物相の変遷

「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）によると、調査地域が該当する地帯区分は「台地・丘陵帯」及び「低山地」である。これらの自然環境について、「台地・丘陵帯」はシイやカシなどの常緑広葉樹林が成立する植生域と考えられるが、大規模に現存する林は皆無であり、台地上には、クスギ・コナラ・アカマツを中心としたいわゆる「武蔵野の雑木林」の部分が見られるが、近年減少が著しい。「低山地」には自然林は少なく、スギ・ヒノキの人工林とクリ・リョウブ・コナラ等の若い二次林が多い。しかし、人工林は管理されず荒廃が進んでいる。また、これらの生息環境の変遷に伴う重要な種を中心とした動物相の変遷は、表 8-1-4-74 に示すとおりである。

調査地域周辺のみに着目した場合、「地図・空中写真閲覧サービス」（国土地理院HP）によると、1980年撮影写真では集落及び耕作地等を除く調査地域周辺は概ねが樹林環境である。一方、1990年撮影写真では樹林の一部が切り開かれて作業道が出現しており、1998年撮影写真では更に樹林が伐採され、樹林の範囲は現況とほぼ同様となる。この変遷は、当初計画されていたゴルフ場建設に伴う工事によるものと考えられる。当時伐採された箇所は植生遷移が進み、現況では草地、低木林が生育している。調査地域でこれらの環境に生息する草地性の動物は、上記の環境の変遷に伴い比較的近年に周辺環境から侵入してきたものと考えられる。

表 8-1-4-74 過去の動物相の変遷

分類群	変遷の状況
哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> 改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は39種から23種へ減少しており、その種の多くが、低山帯から山地帯・亜高山帯にかけて良好な生息状況が保たれていると判断されている。 埼玉県の哺乳類相に関して、改訂前からの大きな変化は、在来種のニホンジカとイノシシ、外来種のアライグマとハクビシンの4種の個体数の増加と分布の拡大である。特にニホンジカについては、平成10年代には小川町等の外秩父山地から丘陵部に分布を広げていることが確認され、スギ、ヒノキの苗木被害、生息密度の高まりが伺えるようになった。このため、生息地の林床植生が衰退、消失し、裸地化した区域が拡大している。
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> 改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、徐々にではあるが絶滅を危惧すべき状況にある鳥類は増加傾向である。その原因としてはまず生息環境そのものの消失が挙げられ、低地帯や台地・丘陵帯にかけて都市化が進み、まとまった緑地や樹林地の減少や劣化は森林性の鳥類にとって営巣地や採食場所の喪失を招いている。 一方、台地・丘陵帯では雑木林の管理放棄による植生の変化によって繁殖鳥に影響が出ている。樹木が大木化し成熟した林は、ヤマガラ、キビタキ等の樹洞性の鳥類に採餌空間や営巣場所を提供し、下層植生が藪化することによってウグイス等の鳥類には好適な生息環境となった。減少するカッコウ類の中でホトトギスだけ増加傾向にあるのは、托卵相手のウグイスの増加によるものと思われる。
爬虫類	<ul style="list-style-type: none"> 改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある爬虫類は増加している。 爬虫類（特に有隣目）は、低地帯から台地・丘陵帯にかけては都市化の進行や宅地・工業団地・幹線道路造成等大規模開発による生息地の減少・消滅、カエル等餌資源の減少等もあり、個体数は減少していると考えられ、県南部、東部ではその傾向が特に顕著である。個体数の多い台地・丘陵帯であっても生息状況のわずかな変化に注意を向けておく必要がある。また、低山帯から山地帯にかけての減少要因としては、森林伐採、新たな林道造成等による乾燥化が指摘されている。
両生類	<ul style="list-style-type: none"> 改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある両生類は増加している。 爬虫類と同様に生息地の減少だけでなく、水田転作による畑地化や圃場整備による用水路のコンクリート化、直線化の影響等を受けていると考えられる。
昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫類は多くの分類群・種を有するが、その多くで埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある昆虫類は増加していると考えられる。その原因としては宅地造成や大規模開発による生息環境の減少の他、田畑、果樹園での除草剤散布、里地里山の管理放棄による植物遷移の進行等、様々な人為的営みが関わっている。一方、緑の保全に対する社会の意識が高まり、行政や市民の自然保護活動等により、積極的な緑地回復が図られ生息地の消滅に一定の歯止めがかかりつつある地域もある。 チョウ類ではナガサキアゲハやムラサキツバメ等南方系の種が定着するようになり、温暖化の進行など地球規模の気象変動も昆虫類の生息環境に影響を及ぼしつつある。
魚類	<ul style="list-style-type: none"> 改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にある。しかしながら、水質汚濁、湧水・湿地環境の消失や河川改修、田園地域の生息地の消失等による生息環境の劣悪化は進行しており、人為による捕獲圧も主な減少原因となっている。 改訂前の埼玉県レッドリスト掲載種であるシマドジョウ、ギバチ、ナマズ、カジカ、ウキゴリ、ムサシノジュズカケハゼ、アシシロハゼは、1990年以前から生息状況は安定しており容易に採集されることから、リストから除外されている。一方、湧水環境が悪化により生息数が減少しているホトケドジョウ等ではランクが上がっている。 埼玉県の魚類相の近年の大きな変化の特徴としては、特定外来生物のオオクチバス、コクチバス、ブルーギル、チャネルキャットフィッシュ、カダヤシと国内移入種のカワムツ、ホンモロコ等の自然繁殖や放流、逸出による分布の拡大が顕著に見られることが挙げられる。

注：参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)

(c) 地域住民その他の人との関わりの状況

調査地域周辺は起伏に富んだ低山地とその周囲の平地で構成されており、低山地はスギ・ヒノキ・サワラ植林の他、クリ・コナラ群集やヤマツツジ・アカマツ群集等の二次林が広範を占め、適宜人為的な管理により維持されてきた樹林環境となっている。また、平地は集落の他に水田、畑地との耕作地が大半を占めており、低山地と同様に人為的な管理等によりその自然環境が維持されており、里地里山の特徴を有する動物相が成立している。そして、調査地域内には「官ノ倉山ハイキングコース」等、これらの自然と触れ合うことのできる活動の場が整備・利用されている。

2) 予測及び評価の結果

① 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用の影響

(a) 工事に用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄

a) 環境保全措置

事業の実施に伴う重要な種及び注目すべき生息地への環境影響を低減するため、表 8-1-4-75 に示す措置を講じる。

表 8-1-4-75(1) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因	環境保全措置の内容
<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事に用資材の搬出入 ・ 建設機械の稼働 ・ 造成等の施工による一時的な影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事関係車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。 ・ 工事に用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・ 工事に用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・ 工事に用資材等の運搬車両のアイドリングストップを徹底する。 ・ 建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する。 ・ 造成計画を見直し、搬入する土量を低減する。 ・ 車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・ 建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・ 建設機械のアイドリングストップを徹底する。 ・ 計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。 ・ 建設機械の整備、点検を徹底する。 ・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・ 樹木の伐採等を行う場合、段階的な実施により周辺環境への動物の移動を促す。 ・ 工事工程を調整し、猛禽類であるサシバ、ノスリ、ハチクマの繁殖への影響に配慮する。 ・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。 ・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・ 造成箇所は、速やかに転圧等を施す。
<p>土地又は工作物の存在及び供用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地形の改変及び施設の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした動物種の生息環境を保全する。 ・ フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる。 ・ 低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する。 ・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する。 ・ 緑地環境周辺に止まり木等を設置し、猛禽類等の採食環境としての利用を促す。 ・ 側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する。 ・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・ ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する。

表 8-1-4-75(2) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因	環境保全措置の内容
土地又は工作物の存在及び供用 ・太陽光パネル等の撤去・廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ・撤去・廃棄関係車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・撤去・廃棄関係車両の整備、点検を適切に実施する。 ・撤去・廃棄関係車両のアイドリングストップを徹底する。 ・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・解体機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・解体機械のアイドリングストップを徹底する。 ・計画的かつ効率的な工事計画を検討し、解体機械の集中稼働を避ける。 ・解体機械の整備、点検を徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努める。

b) 予測

(7) 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(イ) 予測対象時期

工事の実施による動物の生息環境への影響が最大となる時期、緑地の復元が安定し、太陽光発電所の運転が定常状態の時期及び太陽光パネル等の撤去・廃棄による動物への影響が最大となる時期とした。

(ウ) 予測手法

重要な種及び注目すべき生息地へ生じる直接的、間接的な環境影響の変化の程度を定量的に把握し、文献その他の資料調査及び現地調査の結果を踏まえ、文献その他の資料による類似事例の引用又は解析により予測するものとし、必要に応じて専門家等の助言を得ることとした。

また、重要な種の生息環境の減少・喪失に係る影響に関しては、表 8-1-4-76 に示すとおり、植生の改変面積及び改変率を算出した。植生の改変面積及び改変率については、表 8-1-4-75 に示したとおり、「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置を採用し、調査計画書（方法書）時（以下、当初計画）から計画の見直しを図ったことから、見直し前後の両方の値を示している。

調査地域の植生の改変状況は、図 8-1-4-14 に示すとおりである。

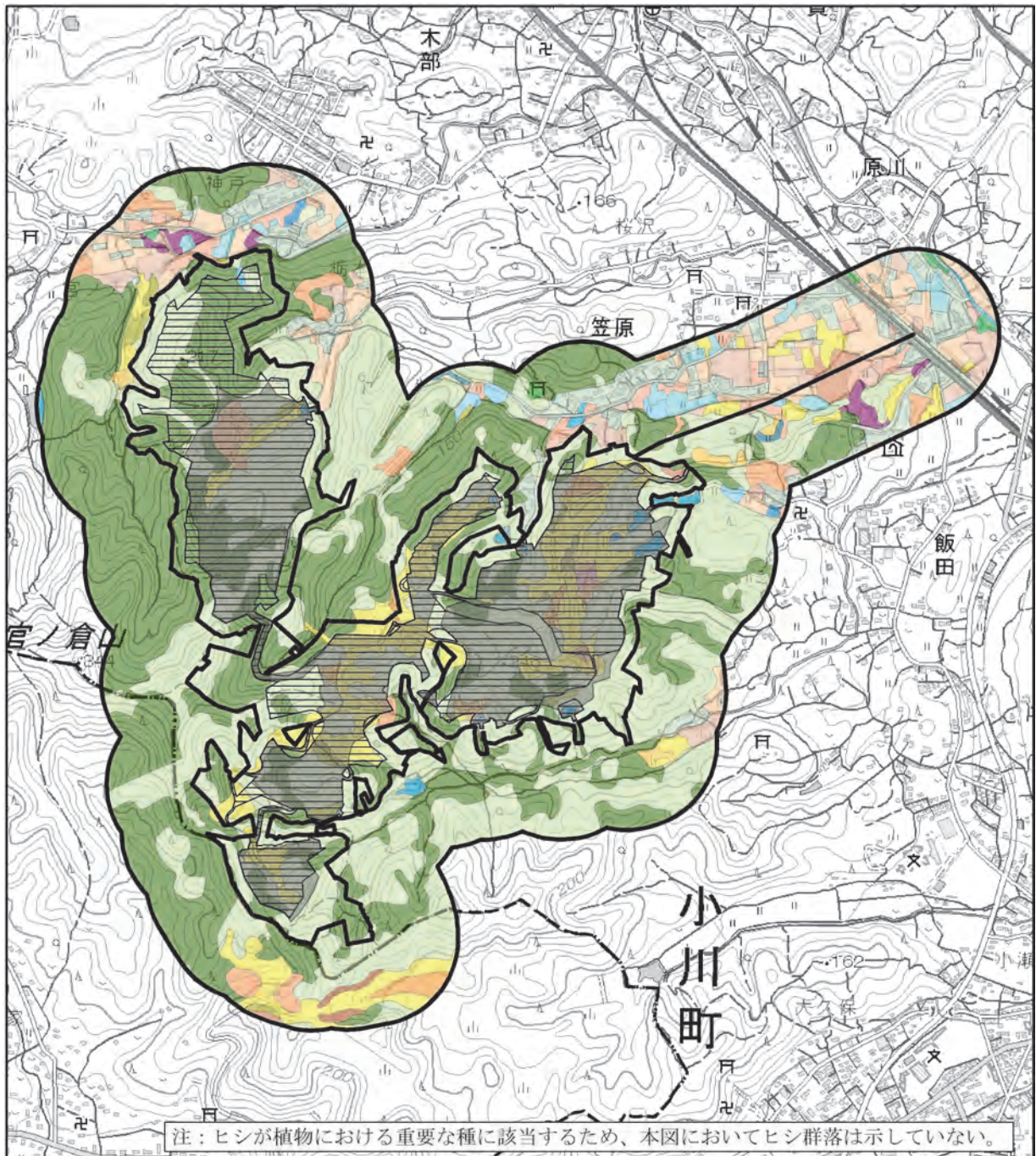
表 8-1-4-76 調査地域の植生面積、植生の改変面積及び改変率

類型区分	行ラベル	調査地域内の面積 (ha)	計画見直し後		当初計画	
			改変面積 (ha)	改変率 (%)	改変面積 (ha)	改変率 (%)
落葉・常緑 広葉樹林	スダジイ群落	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00
	アカマツ亜高木	0.35	0.13	36.06	0.10	27.27
	コナラ群落	95.76	21.53	22.48	23.43	24.47
	ケヤキ群落	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
	アカマツ植林	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00
	植栽地	5.38	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	102.43	21.65	21.14	23.53	22.97
スギ・ヒノ キ植林	スギ・ヒノキ植林	86.95	7.46	8.58	12.25	14.09
	小計	86.95	7.46	8.58	12.25	14.09
伐採跡地・ 竹林	先駆性木本群落	1.26	0.62	48.87	0.50	39.99
	アカメヤナギ群落	0.04	0.04	100.00	0.04	100.00
	アズマネザサ群落	0.82	0.00	0.00	0.00	0.00
	竹林	4.92	1.40	28.39	1.39	28.25
	ハリエンジュ植林	0.16	0.16	100.00	0.16	100.00
	小計	7.20	2.21	30.68	2.09	29.03
草地	ミゾソバ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	ボントクタデ群落	0.08	0.00	0.00	0.06	71.10
	オオブタクサ群落	0.33	0.33	100.00	0.33	100.00
	ヨモギ群落	0.14	0.14	100.00	0.14	100.00
	セイタカアワダチソウ・クズ群落	1.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	メヒシバ・エノコログサ群落	2.91	0.00	0.00	0.00	0.00
	イヌビエ群落	0.84	0.00	0.00	0.00	0.00
	チガヤ群落	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00
	シナダレスズメガヤ群落	1.30	0.56	42.68	0.53	40.81
	スキセリカアワダチ群落	19.93	10.41	52.21	10.55	52.94
	ヨシ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	クサヨシ群落	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	オギ群落	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	28.01	11.43	40.78	11.60	41.42
農耕地	畑地	9.37	0.00	0.00	0.00	0.00
	水田	2.14	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	11.51	0.00	0.00	0.00	0.00
開放水域	ヒシ群落	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00
	開放水域	1.15	0.45	39.58	0.45	39.58
	小計	1.25	0.45	36.43	0.45	36.43
集落・人工 地	人口裸地	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	コンクリート構造物	0.20	0.17	81.45	0.17	81.45
	造成地	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00
	住宅地	12.05	0.00	0.00	0.00	0.00
	墓地	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00
	道路	1.81	0.00	0.00	0.00	0.00
	鉄道	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	15.02	0.17	1.11	0.17	1.11
合計		252.36	43.37	17.19	50.10	19.85

注1：表 8-1-4-75 に示した「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした動物種の生息環境を保全する」環境保全措置に伴い、当初計画及び計画見直し後の値を示している。

注2：各数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

注3：アカマツ亜高木及びアカマツ植林は針葉樹の群落であるが、全体に占める各面積の割合が0.1%台と小さいこと、植生調査の結果から広葉樹林に類似すると考えられたことから、類型区分としては落葉・常緑広葉樹林として扱った。



凡 例

- 対象事業実施区域及び関連施設
- 町村界
- 調査地域
- 変更区域
- 変更区域(当初計画)

【植物群落】

- | | | | |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> スダジイ群落 アカマツ垂高木 コナラ群落 ケヤキ群落 先駆性木本群落 アカメヤナキ群落 アスマネササ群落 竹林 アカマツ植林 | <ul style="list-style-type: none"> スキ・ヒキ植林 ハリエシノ植林 ミゾソバ群落 ホントクダ群落 オオブタクサ群落 ヨモギ群落 セイタカアワダチソウ群落 ヒシパーエノコログサ群落 イシヒエ群落 | <ul style="list-style-type: none"> チガヤ群落 シダレスクダ群落 ススキ・セイタカアワダチソウ群落 ヨシ群落 クサヨシ群落 オギ群落 ヒシ群落 畑地 水田 | <ul style="list-style-type: none"> 植栽地 造成地等 住宅地等 開放水域 |
|---|---|--|---|



1:15,000

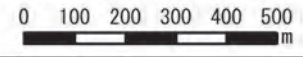


図 8-1-4-14

調査地域における植生の
 変更状況

(イ) 予測結果

本事業における現地調査により確認された重要な種 93 種（哺乳類 2 種、鳥類 33 種、爬虫類 7 種、両生類 6 種、昆虫類 33 種、魚類 4 種、底生動物 8 種）を予測対象種とした。各種の予測の結果は、以降に示すとおりである。

7) 哺乳類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-77 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種 2 種の予測結果は、表 8-1-4-78 に示すとおりである。

表 8-1-4-77 環境影響要因の選定結果（哺乳類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
	工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形変化及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
コウモリ目	○	○	○	○	○
ムササビ	○	○	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目である。

表 8-1-4-78(1) 予測結果 (哺乳類：コウモリ目)

種名	コウモリ目																
選定状況	(ヤマコウモリ) VU (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) VU (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)) (オヒキコウモリ) VU (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) DD (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																
一般生態	(ヤマコウモリ) 【分布】北海道、本州、四国、九州に分布する。埼玉県では、秩父神社のケヤキの樹洞、深谷市川本、熊谷市等での記録がある。 【生態】主に樹洞をねぐらとするが、稀に小鳥用の巣箱や人家からも見つかるねぐらは市街地から森林まで様々な環境で見つかるが、大木の例が多い。日没前後の比較的明るい時間帯にねぐらから飛び出し、開けた空間を高速で飛翔する。ハエやガ、甲虫等を探索、捕食する。翼の形から長距離飛行が得意と思われ、標識調査によって北海道から青森への移動例も確認されている。 (オヒキコウモリ) 【分布】本州、四国、九州に分布する。埼玉県では、秩父市内の秩父鉄道御花畑駅内の記録が唯一ある。 【生態】無人島や海岸における断崖急斜面の乾燥した岩盤の割れ目内や鉄筋コンクリート校舎の継ぎ目の隙間に数頭～数百頭の集団を形成してねぐらとする翼は高速・長距離飛行に適した狭長型で、チョウ目(ガ類)主食にしている。 参考文献：「コウモリ識別ハンドブック 改訂版」(2011年、文一総合出版)																
確認状況	・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で10例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計11例が確認された(バットディテクターによる鳴き声の確認)。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び高草草地の上空であった。																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	資材運搬等の車両が本種の利用環境の一部を通過するが、2種は上空で移動・採食するため道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・障害の影響はほとんどないと予測する。 資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。ヤマコウモリのねぐらとなるような樹洞がある大径木は対象事業実施区域内に確認されていないこと、オヒキコウモリのねぐらとなるような環境は対象事業実施区域内に存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。														
		建設機械の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。ヤマコウモリのねぐらとなるような樹洞がある大径木は対象事業実施区域内に確認されていないこと、オヒキコウモリのねぐらとなるような環境は対象事業実施区域内に存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。														
		造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。ヤマコウモリのねぐらとなるような樹洞がある大径木は対象事業実施区域内に確認されていないこと、オヒキコウモリのねぐらとなるような環境は対象事業実施区域内に存在しないことからその影響はほとんどないと予測する。なお、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生息環境への更なる影響の低減を図る。														
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在 2種のねぐらとなるような環境は改変区域内には存在しないため、地形の改変及び施設の存在による改変はない。また、確認状況から、本種は主に河川上空を採餌環境として利用し、周辺の水域や樹林環境に生息する昆虫類を捕食しているものと考えられる。これらの餌動物の生息環境は地形の改変及び施設の存在により一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り餌動物の生息環境への影響の回避を図る。この結果、餌動物の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。 <table border="1" data-bbox="427 1469 1426 1559"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 また、餌動物の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)			改変率(%)												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後												
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38												
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。															

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-78(2) 予測結果 (哺乳類: ムササビ)

種名	ムササビ																			
選定状況	NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																			
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州(日本固有種)に分布する。埼玉県では、亜高山帯から比企丘陵、加治丘陵等の山裾まで分布する。</p> <p>【生態】自然林、発達した二次林や針葉樹植林等に生息する。低地から亜高山帯までみられるが低地に多い。夜行性で、樹上で活動する。巣は大木の樹洞につくり、日中はその中で休息している。ほぼ完全な植物食で木の芽、葉、花、果実、種子を食べる。</p> <p>参考文献:「日本の哺乳類 改訂版」(2005年、東海大学出版会)</p>																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で6例、対象事業実施区域内で1例、合計7例が確認された(目撃、糞及び突孔)。 ・確認環境は、人工構造物、針葉樹林及び広葉樹林であった。 																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は樹上性であり道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、走行ルート周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。</p>																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、走行ルート周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。</p>																	
		造成等による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいと想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、改変区域周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。なお、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生息環境への更なる影響の低減を図る。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="430 1299 1420 1388"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、改変区域周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、ねぐらへの影響はほとんどないと予測する。さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

1) 鳥類

重要な種の特徴を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-79 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種 33 種の予測結果は、表 8-1-4-80 に示すとおりである。

表 8-1-4-79 環境影響要因の選定結果（鳥類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
	工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
オシドリ	○	○	○	○	○
アオバト	○	○	○	○	○
ミゾゴイ	○	○	○	○	○
ジュウイチ	○	○	○	○	○
ホトトギス	○	○	○	○	○
ツツドリ	○	○	○	○	○
ヨタカ	○	○	○	○	○
ハチクマ	○	○	○	○	○
トビ	○	○	○	○	○
ツミ	○	○	○	○	○
ハイタカ	○	○	○	○	○
オオタカ	○	○	○	○	○
サシバ	○	○	○	○	○
ノスリ	○	○	○	○	○
フクロウ	○	○	○	○	○
アオバズク	○	○	○	○	○
カワセミ	○	○	○	○	○
アオゲラ	○	○	○	○	○
ハヤブサ	○	○	○	○	○
オコジョ	○	○	○	○	○
ヤマガラ	○	○	○	○	○
ヒガラ	○	○	○	○	○
ウグイス	○	○	○	○	○
ヤブサメ	○	○	○	○	○
オムシキ	○	○	○	○	○
トラツグミ	○	○	○	○	○
ルリビタキ	○	○	○	○	○
キビタキ	○	○	○	○	○
オオルリ	○	○	○	○	○
ベニマシコ	○	○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	○	○
アオジ	○	○	○	○	○
クロジ	○	○	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「-」は、影響はほとんどない又ははないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-80(1) 予測結果 (鳥類: オシドリ)

種名	オシドリ									
選定状況	DD (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県・低山帯]EN(繁)・VU(越) [台地・丘陵帯]VU(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))									
一般生態	<p>【分布】 留鳥または夏鳥として北海道、本州中部以北で繁殖し、冬季は本州以南で越冬する。埼玉県では、繁殖記録は少ない。現在、夏季の記録がほとんど得られていない。冬季には、低地の河川や湖沼、ため池に飛来することもあるが、ダム湖や狭山湖のような山間の湖沼で越冬するものが多い。</p> <p>【生態】 山間の湖沼や溪流近くの樹洞に営巣、繁殖する。特にミズナラの多いブナ林、シイ・カシ林等を好む。草の種子、樹木の果実、水生昆虫等を食べるが、特にシイ、カシ、ナラ類のどんぐりを好む。冬季は平地の湖沼や河川にも渡来する。春秋の移動時期には平地でも見られる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>									
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(目撃)。確認環境は、開放水域(止水)であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・本種の移動時期にあたる春季のみの確認であることから、渡り期における一時的な飛来であると考えられる。 									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	工事関係車両は本種の生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。							
		建設機械の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
		造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の使用	地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>改変率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域(止水)</td> <td>1.25</td> <td>0.45</td> <td>36.43</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、予測地域の利用は渡り期の一時的なものであることからその影響は小さく、上記のとおり対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の利用可能性は維持されると考えられる。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)	開放水域(止水)	1.25	0.45
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)							
開放水域(止水)	1.25	0.45	36.43							
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。								

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(2) 予測結果 (鳥類:アオバト)

種名	アオバト																																
選定状況	[全県]RT(繁) [低山帯]LP(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																
一般生態	<p>【分布】九州以北に分布する留鳥で、東北・北海道では冬に南下する。埼玉県では、山地帯から亜高山帯下部の落葉広葉樹林や針広混交林に生息するが、個体数は多くない。</p> <p>【生態】山地帯の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息する。樹上、特に小枝や葉が茂る樹冠部、林内や林縁の地上で採食する。樹木や草の実、果実、種子等を食べ、どんぐりのような堅果も食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季、冬季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域内で6例(改変区域内で3例)が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林であった ・ ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.05であった。 ・ 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																														
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																														
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																														
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.97%から21.14%まで軽減される(1.88haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>23.53</td> <td>21.65</td> <td>22.97</td> <td>21.14</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計1.08個体(21.09%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境: 広葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>102.43</td> <td>5.12</td> <td>21.65</td> <td>1.08</td> <td>21.09</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97	21.14	確認環境: 広葉樹林					面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	102.43	5.12	21.65	1.08	21.09
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)			改変率(%)																												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																												
落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97	21.14																												
確認環境: 広葉樹林																																	
面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																													
102.43	5.12	21.65	1.08	21.09																													
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																															

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(3) 予測結果 (鳥類: ミゾゴイ)

種名	ミゾゴイ	
選定状況	VU (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県・低山帯]EN(繁) [台地・丘陵帯]CR(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))	
一般生態	<p>【分布】夏鳥として本州以南に渡来する。埼玉県では、春秋の渡りの時期には低地の公園の林等で記録されることもあるが、主に台地・丘陵帯の森林で繁殖する。</p> <p>【生態】丘陵地や低山の良く茂った広葉樹林や針広混交林で繁殖する。営巣場所はケヤキやコナラ等の広葉樹を利用することが多い。沢筋や谷間の溪流、山際の湖沼の縁等で、サワガニ、ミミズ等を捕食する。日中でも暗い溪流で餌を捕ることもある。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>	
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された(囀り)。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・「生態系」において実施した営巣地確認調査で、合計4つの巣(古巣含む)が確認された(図8-1-4-15参照)。(営巣地確認調査の内容等は、「8-1-6生態系(1)地域を特徴づける生態系1)調査結果の概要②複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息若しくは生育環境の状況(b)注目種に係る調査結果の概要c)特殊性注目種(ミゾゴイ)(ウ)現地調査」に示す) 	
予測結果	工事の実施	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>
		<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から変更区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>
		<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から変更区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>変更区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。



表 8-1-4-80(3) 予測結果 (鳥類: ミゾゴイ)


種名	ミゾゴイ																					
予測結果	土地 又は 工作物 の存在 及び 供用	地形改変 及び 施設の 存在	<p>営巣地の位置やその周辺の植生等から、本種の繁殖のために保全すべき区域（営巣地及び採食環境を含む繁殖環境）は、営巣地を含む谷地形とその下部に位置する沢であると考えられる。</p> <p>地形の改変及び施設の存在により、本種の繁殖環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、繁殖環境の改変を回避する。また、予測地域全体の本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）（図 8-1-4-15 参照）。</p> <table border="1" data-bbox="432 501 1422 589"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>改変区域外の本種の採食環境の一部には、地形の改変及び施設の存在により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
		生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																	
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																	
太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。


動植物保全の観点から 非公開

凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設  町村界

 調査地域

 変更区域  変更区域(当初計画)

 ミソゴイ営巣地確認地点



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-15

ミソゴイ 営巣地確認位置

表 8-1-4-80(4) 予測結果 (鳥類: ジュウイチ)

種名	ジュウイチ																
選定状況	[全県、低山帯]LP(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																
一般生態	<p>【分布】夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低山帯上部から山地帯、亜高山帯の森林に生息する。</p> <p>【生態】日本で繁殖するカッコウ科の他の3種(カッコウ、ツツドリ、ホトトギス)より標高の高い山地に生息する。托卵相手は主にオオルリ、コルリ、ルリビタキ、コマドリ。昆虫類を主食とし、樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域内で2例(変更区域内で1例)が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたこと、本種の托卵相手であるオオルリが確認されていることから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>														
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>														
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>														
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変更率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの変更回避)。</p> <table border="1" data-bbox="430 1377 1420 1467"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">変更面積(ha)</th> <th colspan="2">変更率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、上記のとおり対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が広く残されること、後述するとおり本種の托卵相手であるオオルリへの影響も小さいと予測することから、本種の生息は維持されることが考えられる。</p> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)		変更率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)			変更率(%)												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後												
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38												
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>															

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(5) 予測結果（鳥類：ホトトギス）

種名	ホトトギス																																			
選定状況	[全県]RT(繁) [低山帯]LP(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																			
一般生態	<p>【分布】夏鳥として北海道、本州、四国、九州、南西諸島に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低地帯から亜高山帯の森林に生息する。</p> <p>【生態】低地から山地のササ藪のある林に生息する。托卵習性を持ち、主な仮親はウグイスである。昆虫類を主食とし、樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で7例(変更区域内で4例)、合計10例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.08であった。 ・囀りが確認されたこと、本種の托卵相手であるウグイスが多く確認されていることから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																			
工事の実施	工事の 実施	工事用 資材等の 搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
		建設機械 の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
		造成等 の施工 による 一時的な 影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
予測結果	土地 又は 工作物 の存在 及び 供用	地形改変 及び 施設の 存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計1.52個体(18.56%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されること、後述するとおり本種の托卵相手であるウグイスへの影響も小さいと予測することから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境：広葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>102.43</td> <td>8.19</td> <td>21.65</td> <td>1.52</td> <td>18.56</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境：広葉樹林					面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	102.43	8.19	21.65	1.52	18.56
		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)																												
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																															
確認環境：広葉樹林																																				
面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																
102.43	8.19	21.65	1.52	18.56																																
太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(6) 予測結果 (鳥類: ツツドリ)

種名	ツツドリ																		
選定状況	[全県、低山帯]LP(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																		
一般生態	<p>【分布】夏鳥として九州以北に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低山帯から亜高山帯の森林に生息する。</p> <p>【生態】低山帯の落葉広葉樹林や亜高山帯の針葉樹林に生息する。本州では主にセンダイムシクイ、メボソムシクイ等のムシクイ類に托卵する。昆虫類を主食とし、樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたものの確認例数が春季の1例のみであり、托卵相手であるムシクイ類がほとんど確認されていないことから、一時的な飛来であると考えられる。 																		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、調査地域の利用は一時的なものであることからその影響は小さく、上記のとおり対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の利用可能性は維持されることが考えられる。</p> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
		生息環境	面積(ha)			改変面積(ha)		改変率(%)											
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後														
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38														
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(7) 予測結果（鳥類：ヨタカ）

種名	ヨタカ																				
選定状況	NT（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） VU(繁)（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】夏鳥として北海道、本州、四国、九州に生息する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低山帯から亜高山帯のやや開けた山林等に生息し、繁殖している。</p> <p>【生態】草原や灌木が散在する落葉広葉樹やマツ等の針葉樹の林で、地面が乾いた明るい林を好む。飛びながら昆虫類を捕食する。日没前後からの数時間が採食の最も活発な時間帯である。主に林縁の地上に浅い窪みをつくり産卵する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された（目撃）。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・確認された2例は2個体の同時確認であったことからペアである可能性があり、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																				
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地、草地）の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	工事の実施	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられる。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設存在	<p>地形の改変及び施設存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は22.03%から19.04%まで軽減される（6.73haの改変回避）。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地、草地</td> <td>224.59</td> <td>49.48</td> <td>42.75</td> <td>22.03</td> <td>19.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地、草地	224.59	49.48	42.75	22.03
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04																
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。







表 8-1-4-80(8) 予測結果 (鳥類: ハチクマ)

種名	ハチクマ		
選定状況	[全県]EN(繁) [低山帯、台地・丘陵帯]DD(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))		
一般生態	<p>【分布】夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来し繁殖する。埼玉県では、丘陵帯、低山帯、山地帯の各地に夏鳥として渡来し繁殖していたが、現在、県内での繁殖情報が極めて少なくなっている。</p> <p>【生態】標高1、500m以下の丘陵地や低山の山林に生息し、ナラ等の落葉広葉樹林やアカマツ等の針葉樹林で繁殖する。ハチの幼虫や蛹を好んで食べ、クロスズメバチ等のジバチ類を特に好む。ハチ以外にも両生類や鳥類等も給餌する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計57例が確認された。 対象事業実施区域内で1ペアの繁殖が確認され、巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。 繁殖期には本種の営巣地が確認されなかったものの、その後非繁殖期(落葉期)に対象事業実施区域内(改変区域内)に本種が利用した可能性がある巣が確認された。 		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入(※)	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種は移動能力が比較的高いことから、移動が可能であると想定される。また、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置に加えて、さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と走行ルートの位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>
		建設機械の稼働(※)	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と改変区域の位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>
		造成等の施工による一時的な影響(※)	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と改変区域の位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>
		土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形改変及び施設の存在</p> <p>本種は1ペアの繁殖が確認され、今シーズンに利用した可能性がある巣は地形の改変及び施設の存在により消失する。</p> <p>本種の巣であった場合、「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置における検討でもその影響の回避・低減が困難であることから、代償措置を実施する。代償措置として、人工代替巣を設置し非改変区域へ新たな営巣地を創出・誘導することにより、出来る限り本種への影響を軽減する。</p> <p>なお、代償措置についてはその効果に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討する。</p>
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>

注: ※について、本種が利用した可能性のある巣は改変区域内にあり、本種の巣であった場合は地形の改変等により消失するが、本種については環境保全措置により人工代替巣を設置し、非改変区域外へ営巣地を誘導することを踏まえ、別の場所での繁殖を想定して予測対象とした。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  変更区域(当初計画)
-  ハチクマ 営巣地



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-16

ハチクマ 営巣地確認位置
(推定)

表 8-1-4-80(9) 予測結果（鳥類：トビ）

種名	トビ																										
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]DD(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																										
一般生態	<p>【分布】留鳥として九州以北に普通に生息する。埼玉県では、低地帯から低山帯に留鳥として生息する。利根川や荒川等の河川敷や広い農耕地等で多く見られるが、特に渡良瀬遊水地には多い。</p> <p>【生態】各地の海岸、農耕地、河川、湖沼の周辺に生息し、平地から低山で繁殖する。主に死肉を食べるが、ネズミ、蛇、カエル、ミミズ、鳥等の生きている小動物も捕食する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																										
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計35例が確認された。 ・ 繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・ 繁殖に係る行動が確認されなかったことから、本種は予測地域を休息や採食等の為に一時的に利用していると考えられる。 																										
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの改変回避)、採食環境で20.70%から17.71%まで(6.85haの改変回避)、軽減される。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.90</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70
生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																							
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																						
	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																					
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71																						
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。







表 8-1-4-80(10) 予測結果 (鳥類：ツミ)

種名	ツミ																						
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT2(繁) [低山帯]DD(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																						
一般生態	<p>【分布】 留鳥または夏鳥として北海道から南西諸島までに分布する。埼玉県では、低地帯から低山帯に留鳥として生息し、繁殖する。現在は大きな林よりも市街地の緑地や公園の林等の小さな緑地で営巣するものが多い。</p> <p>【生態】 多くは平地から亜高山帯の林に生息するが、水田地帯や牧草地、住宅街及びその周辺等、比較的開けた環境でも繁殖記録が得られている。主にスズメ、ムクドリ等の小鳥を捕食するが、小型のネズミ類や昆虫類も捕食する。なわばりの中のいくつかの決まった樹木にとまり、近くを通過する小鳥を襲う。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																						
確認状況	<p>・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計44例が確認された。</p> <p>・対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認された。巣立ち後の幼鳥は確認されなかったものの、繁殖に成功したと考えられた。</p>																						
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣と走行ルートがやや近いものの、現状で車両が通行する場所であることから、繁殖への影響は小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																				
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から変更区域が離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																				
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から変更区域が離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																					
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形変化及び施設の存在</p> <p>本種は対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認されたが、営巣地の変更はない(図 8-1-4-17 参照)。</p> <p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境及び営巣地周辺への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変率率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの変更回避)、採食環境で20.70%から17.71%まで(6.85haの変更回避)、軽減される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">変更面積(ha)</th> <th colspan="2">変率率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.90</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	変更面積(ha)		変率率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70
生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	変更面積(ha)			変率率(%)																		
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																		
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																		
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71																		
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  変更区域(当初計画)
-  ツミ 営巣地



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-17

ツミ 営巣地確認位置

表 8-1-4-80(11) 予測結果 (鳥類：ハイタカ)

種名	ハイタカ																										
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県]DD(繁)・NT2(越) [低山帯]DD(繁・越) [台地・丘陵帯]NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																										
一般生態	<p>【分布】北海道と本州の一部で繁殖し、冬季は全国に冬鳥として渡来する。埼玉県では、冬季は平地の林、農耕地、河川敷等に生息する。県内でも夏季に山地に生息するが、繁殖の状況についてはよくわかっていない。</p> <p>【生態】ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。林内、林縁の高地や草地等で獲物を捕らえる。主にツグミ位までの小鳥を狩る。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																										
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 冬季調査において、対象実施区域内で1例(改変区域内で1例)が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計13例が確認された。 繁殖に係る行動は確認されなかった。 確認例数が少ないことから、本種は予測地域を休息や採食等の為に一時的に利用していると考えられる。 																										
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																								
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の使用	<p>地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの改変回避)、採食環境で20.70%から17.71%まで(6.85haの改変回避)、軽減される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.90</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70
生息環境 (上段：営巣環境、下段：採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																							
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																						
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																						
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71																						
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(12) 予測結果 (鳥類: オオタカ)

種名	オオタカ																								
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県]VU(繁・越) [低山帯]VU(繁) [台地・丘陵帯]VU(繁)・NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																								
一般生態	<p>【分布】留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布し、南西諸島では冬鳥。埼玉県では、留鳥として平地から山地の林や農耕地、河川敷等に生息する。</p> <p>【生態】平地から亜高山帯の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、しばしば獲物を求めて農耕地、牧草地や水辺等の開けた場所にも飛来する。市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。獲物は主にツグミ級の小鳥で、ネズミやウサギ等も餌にする。入り組んだ樹間をくぐり抜けながら飛び、急降下・急上昇して獲物を背後から襲う。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																								
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計6例が確認された。 ・繁殖に係る行動(ディスプレイ飛行)が確認されたが、繁殖は確認されなかった。 ・確認例数が少ないことから、本種は予測地域を休息や採食等の為に一時的に利用していると考えられる。 																								
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																							
	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																							
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設存在	<p>地形の変化及び施設存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの改変回避)、採食環境で20.70%から17.71%まで(6.85haの改変回避)、軽減される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境 (上段: 営巣環境、下段: 採食環境)</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.90</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境 (上段: 営巣環境、下段: 採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70
生息環境 (上段: 営巣環境、下段: 採食環境)	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																					
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																				
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																				
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71																				
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																							

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(13) 予測結果（鳥類：サンバ）

種名	サンバ		
選定状況	VU（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） [全県・台地・丘陵帯]CR(繁) [低山帯]VU(繁)（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】夏鳥として、本州、四国、九州に渡来する。南西諸島では越冬するものもある。埼玉県では、低地帯、台地・丘陵帯、低山帯の各地に夏鳥として渡来し繁殖していたが、現在は県内での繁殖情報が極めて少なくなっている。</p> <p>【生態】低山から丘陵の森林に繁殖し、周辺の水田等の開けた環境で狩りをする。ヘビを好んで食べる他、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタ等の昆虫もよく食べる。木の上から地上を見張り、獲物を見つけると飛び降りて捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>		
確認状況	<p>・繁殖期調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計359例が確認された。</p> <p>・対象事業実施区域内(変更区域外)で2ペア(Aペア及びBペア)、対象事業実施区域外で1ペア(Cペア)、合計3ペアの繁殖が確認され、いずれのペアも巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。</p>		
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種は移動能力が比較的高いことから、移動が可能であると想定される。また、Aペア及びCペアについては巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる一方、Bペアは巣と走行ルートがやや近い。このため、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置に加えて、さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と走行ルートとの位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>	
	工事の実施	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と変更区域との位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と変更区域との位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>

表 8-1-4-80(13) 予測結果（鳥類：サンバ）

種名	サンバ																							
予測結果	土地 又は 工作物の存在 及び 供用	<p>本種は対象事業実施区域内で2ペア、対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認されたが、営巣地の改変はない。</p> <p>「サンバの保護の進め方」（平成25年、環境省）に基づき、行動圏解析を実施した（図8-1-4-18参照）。繁殖が確認された3ペアのうち、対象事業実施区域外に巣があるCペアについては、営巣中心域は改変されない。また、高利用域の一部が消失するものの、その面積は小さいことから、Cペアへの影響は小さいと予測する。一方、対象事業実施区域内に巣がある2ペア（Aペア及びBペア）については、営巣中心域の一部が消失される。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り営巣中心域への影響の回避を図る。この結果、Aペアの営巣中心域の改変率は下表のとおり、26.92%から14.74%まで（2.96ha）、Bペアの営巣中心域は13.84%から13.57%まで軽減される（それぞれ2.96ha及び0.07haの改変回避）。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ペア名</th> <th rowspan="2">営巣中心域面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aペア</td> <td>24.33</td> <td>6.55</td> <td>3.59</td> <td>26.92</td> <td>14.74</td> </tr> <tr> <td>Bペア</td> <td>26.75</td> <td>3.70</td> <td>3.63</td> <td>13.84</td> <td>13.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、各ペアの高利用域のうち、本種の採餌環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）がそれぞれ17.87%及び20.26%消失するものの、調査結果から推定される主要な採食地は残される。さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」、「緑地環境周辺に止まり木等を設置し、猛禽類等の採食環境としての利用を促す」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、Aペア及びBペアの予測に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討する。</p>	ペア名	営巣中心域面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	Aペア	24.33	6.55	3.59	26.92	14.74	Bペア	26.75	3.70	3.63	13.84	13.57
	ペア名	営巣中心域面積(ha)			改変面積(ha)		改変率(%)																	
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																			
Aペア	24.33	6.55	3.59	26.92	14.74																			
Bペア	26.75	3.70	3.63	13.84	13.57																			
太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																							

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

- | | | |
|--|--|--|
|  対象事業実施区域及び関連施設 |  町村界 | |
|  調査地域 |  営巣中心域 |  高利用域 |
|  変更区域 |  変更区域(当初計画) | |
|  サシバ 営巣地 | | |
- 【環境の区分】
- | | |
|---|--|
|  樹林地 |  果樹園 |
|  草地・農耕地 |  市街地等 |
|  伐採跡地・竹林 |  造成地 |



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-18

サシバ 行動圏解析結果







表 8-1-4-80(14) 予測結果（鳥類：ノスリ）

種名	ノスリ																										
選定状況	[全県]NT2(繁・越) [低山帯]NT2(繁) [台地・丘陵帯]DD(繁)・NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																										
一般生態	<p>【分布】四国以北で繁殖し、留鳥または漂鳥。南西諸島では越冬するものもある。埼玉県では、台地・丘陵帯で繁殖している他、低地帯での営巣も確認されている。冬は低地帯の農耕地や河川敷等でよく見られるようになってきた。</p> <p>【生態】山地の森林や岩壁で繁殖するが、低地帯での繁殖確認が増えている。冬は農耕地、河川敷等の見通しのよい場所で見られる。営巣地周辺の荒地、河原、農耕地、干拓地で狩りをする。木の枝に止まって待つか、帆翔しながら獲物を探し、ネズミ等の小哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫類、鳥類等を捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																										
確認状況	<p>・ 秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で3例（改変区域内で1例）、合計5例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計139例が確認された。</p> <p>・ 対象事業実施区域内(改変区域外)で1ペアの繁殖が確認されたが幼鳥の確認はなく、途中失敗したと考えられた。</p>																										
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																									
	工事の実施	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>																								
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。</p>																									
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>本種は対象事業実施区域内(改変区域外)で1ペアの繁殖が確認されたが、営巣地の改変はない(図 8-1-4-19 参照)。</p> <p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境及び営巣地周辺への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの改変回避)、採食環境で29.36%から28.91%まで(0.18haの改変回避)、軽減される。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境 (上段：営巣環境、下段、採食環境)</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> <tr> <td>草地、農耕地</td> <td>39.53</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>29.36</td> <td>28.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」、「緑地環境周辺に止まり木等を設置し、猛禽類等の採食環境としての利用を促す」等の措置を講じることにより、採食環境を中心に出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、予測に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討する。</p>				生息環境 (上段：営巣環境、下段、採食環境)	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91
	生息環境 (上段：営巣環境、下段、採食環境)	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																						
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																						
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																						
草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91																						
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																										

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  変更区域(当初計画)
-  ノスリ 営巣地



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-19

ノスリ 営巣地確認位置







表 8-1-4-80(15) 予測結果 (鳥類：フクロウ)

種名	フクロウ																	
選定状況	[全県]RT(繁)・NT2(越) [低山帯]DD(繁) [台地・丘陵帯]VU(繁)・NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																	
一般生態	<p>【分布】九州以北で繁殖する留鳥。埼玉県では、低地帯から亜高山帯で幅広く繁殖している。冬は低地へ漂行するものもいる。</p> <p>【生態】平地から山地の林に棲み大木の樹洞に営巣するが、オオタカや農家の納屋に産卵することもある。夜行性で、林縁や下枝の少ない樹林等で採食する。獲物は地上の匍匐潜行型のネズミ類やモモンガ等、活動時間帯が合って捕りやすいものが多い。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																	
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で16例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計17例が確認された(目撃及び罠り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・対象事業実施区域外で合計1ペアの繁殖が確認された。 																	
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、確認された巣から走行ルートが離れていること、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、確認された巣から改変区域が離れていること、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、確認された巣から改変区域が離れていること、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>本種は対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認されたが、営巣地の改変はない(図 8-1-4-20 参照)。</p> <p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1570 1422 1659"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後													
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38													
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  変更区域(当初計画)
-  フクロウ 営巣地



1:15,000

0 100 200 300 400 500
m

図 8-1-4-20

フクロウ 営巣地確認位置

表 8-1-4-80(16) 予測結果（鳥類：アオバズク）

種名	アオバズク																		
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT2(繁) [低山帯]DD(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																		
一般生態	<p>【分布】夏鳥として全国的に渡来する。南西諸島では留鳥。埼玉県では、低地帯から山地帯にかけて林に生息するが、多くは大木のある社寺林や屋敷林等で繁殖している。</p> <p>【生態】低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息し、巨木があれば公園や社寺林にも生息する。落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林等どんな林でもいいが、特に常緑広葉樹林を好む。夜間に活動し、大型のガ、セミ、コガネムシ等を主として捕らえるが、小鳥やネズミも捕る。巣は洞穴借用型で、樹洞を使うことが多い。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																		
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変化及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="430 1451 1420 1541"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)															
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後														
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38														
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																	

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(17) 予測結果（鳥類：カワセミ）

種名	カワセミ								
選定状況	[全県]RT(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))								
一般生態	<p>【分布】 全国に留鳥として分布している。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息している。</p> <p>【生態】 河川、湖沼、小川、用水等の水辺で見られる。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地がないと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。水辺の杭や水草、枝等にとまり、水面に飛び込んで小魚やザリガニ、エビ等を捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>								
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された。確認環境は、開放水域（流水）であった。 ・ ラインセンサス法による確認はなかった。 ・ 対象事業実施区域外で1つの巣及び繁殖が確認されたことから、本種は予測地域で繁殖している。 								
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両は本種の生息環境（開放水域）周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の生息環境（開放水域）周辺は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。</p>						
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>						
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>						
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域（流水）が広く存在し、繁殖も流水環境で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" data-bbox="555 1368 1294 1431"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積 (ha)</th> <th>改変面積 (ha)</th> <th>改変率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域 (止水)</td> <td>1.25</td> <td>0.45</td> <td>36.43</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、上記のとおり対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の生息は維持されることが考えられる。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変及び施設の存在により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)	開放水域 (止水)	1.25	0.45
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)						
開放水域 (止水)	1.25	0.45	36.43						
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。</p>							

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(18) 予測結果 (鳥類: アオゲラ)

種名	アオゲラ																																														
選定状況	[全県]RT(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																														
一般生態	<p>【分布】留鳥として本州・四国・九州・大隈諸島に分布する。埼玉県では、かつての主な生息地は低山帯から山地帯であったが、雑木林が放置され成熟した落葉広葉樹林となりキツツキ類にとって好適な生息環境が整ったことにより台地・丘陵帯での繁殖記録が増加している。</p> <p>【生態】山地から平地のよく茂った林に生息し、生木の幹に穴を掘って巣穴とする。冬季に山地から低地に移動する個体も多い。樹幹を下から上へよじ登りながら採食し、昆虫類等を捕らえる。地上ではアリを盛んに舐めとる。また、小に止まって果実も食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																														
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季、春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で5例、対象事業実施区域内で15例(改変区域内で7例)、合計20例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.05、針葉樹林で0.10であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																														
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																													
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																													
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																													
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計1.83個体(13.24%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>5.12</td> <td rowspan="2">21.65</td> <td rowspan="2">1.08</td> <td rowspan="3">合計 1.83</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>8.70</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>13.82</td> <td>7.46</td> <td>0.75</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	5.12	21.65	1.08	合計 1.83	針葉樹林	86.95	8.70	合計		13.82	7.46	0.75
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																											
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																										
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																																										
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林																																															
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																										
広葉樹林	102.43	5.12	21.65	1.08	合計 1.83																																										
針葉樹林	86.95	8.70																																													
合計		13.82	7.46	0.75																																											
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																													

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(19) 予測結果（鳥類：ハヤブサ）

種名	ハヤブサ	
選定状況	国内希少野生動植物種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律） VU（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について） [全県、台地・丘陵帯]VU(越)（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）	
一般生態	<p>【分布】留鳥として、北海道から九州で繁殖し、冬季は冬鳥として全国に渡来する。埼玉県では、冬鳥として渡来し、平地から山地の河川敷、農耕地、湖沼、ダム湖等に生息する。</p> <p>【生態】広い空間で狩りをするため、海岸やそれに近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等に生息する。元来、海岸の断崖や岸壁の岩棚等で繁殖していたが、現在は市街地のビルや橋脚等、人工構造物に営巣する例が増加している。獲物はほとんどがヒヨドリ級の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>	
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内で3例が確認された。 ・繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・確認例数が少なく、上空の飛翔のみの確認であったことから、本種による予測地域の利用はなく、上空を通過する個体の確認であると考えられる。 	
予測結果	工事用資材等の搬出入	工事関係車両は本種の生息環境周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の生息環境は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
	工事の実施	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、改変区域に本種の生息環境は存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、改変区域に本種の生息環境は存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
	土地又は工作物の存在	本種は繁殖に係る行動が確認されなかったこと、上空の飛翔のみの確認であったことから、本種による予測地域の利用はないと考えられる。 以上のことから、本種の生息環境への影響はほとんどないと予測する。
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響はほとんどないと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行うが、本種の生息環境については現況から変化はないと考えられる。

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(20) 予測結果（鳥類：サンコウチョウ）

種名	サンコウチョウ																																			
選定状況	[全県・低山帯]EN(繁) [台地・丘陵帯]CR(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																			
一般生態	<p>【分布】夏鳥として本州以南に渡来して繁殖する。埼玉県では、以前は低地帯から丘陵・台地帯、山地帯に普通に生息していたが、1980年代以降急激に数を減らした。現在は低地帯では見られなくなり、主に丘陵帯から低山帯で繁殖している。</p> <p>【生態】平地から低山の針葉樹が混じる暗い林で、近くに川があるところを好んで営巣する。低い灌木の間や林の中・下層の空間を採食のために飛翔し、フライングキャッチ法で飛翔する昆虫類を捕らえる。繁殖期はなわばりを形成し、葉のない枝の2又か3又の部分にスギの皮やアカマツの葉、コケ類等をクモの糸で絡ませて逆円錐形の巣をつくる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で8例、対象事業実施区域内で7例(変更区域内で3例)、合計15例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.04であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
		造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の有無	<p>地形の変化及び施設の有無により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変更率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの変更回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">変更面積(ha)</th> <th colspan="2">変更率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の変更面積とラインセンサス法の結果から合計0.30個体(8.62%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境：広葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>変更面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.95</td> <td>3.48</td> <td>7.46</td> <td>0.30</td> <td>8.62</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)		変更率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境：広葉樹林					面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	86.95	3.48	7.46	0.30
生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)		変更率(%)																																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																															
確認環境：広葉樹林																																				
面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																
86.95	3.48	7.46	0.30	8.62																																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変化はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(21) 予測結果 (鳥類: ヤマガラ)

種名	ヤマガラ																																																			
選定状況	[全県]RT(繁) [台地・丘陵帯]NT2(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																			
一般生態	<p>【分布】留鳥または漂鳥として、北海道、本州、四国、九州、及び小笠原諸島を除く島嶼に分布する。埼玉県では、丘陵帯から山地帯の森林に生息し繁殖する。</p> <p>【生態】低地から低山帯の雑木林、マツ林等色々な樹林に生息するが、特にシイ、カシの常緑広葉樹林を好む。樹上で採食するが、落ちてくる木の実を拾うため地上にも下りる。昆虫類等も食べるが、特に樹木の種子を好む。巣は洞穴借用型で、樹洞やキツツキの古巣等を利用する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 全調査において、対象事業実施区域外で44例、対象事業実施区域内で88例(改変区域内で55例)、合計132例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びそれらの低木林であった。 ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.79、針葉樹林で0.89であった。 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																																			
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
予測結果	地形改変及び施設の存在 土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="430 1377 1420 1467"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計23.74個体(15.00%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="430 1579 1420 1691"> <thead> <tr> <th colspan="7">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th colspan="2">推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>80.92</td> <td rowspan="2">21.65</td> <td rowspan="2">17.10</td> <td rowspan="2">合計</td> <td rowspan="2">15.00</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>77.39</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>158.31</td> <td>7.46</td> <td>6.64</td> <td>23.74</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林							確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)		広葉樹林	102.43	80.92	21.65	17.10	合計	15.00	針葉樹林	86.95	77.39			158.31	7.46	6.64	23.74	
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																																															
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林																																																				
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																															
広葉樹林	102.43	80.92	21.65	17.10	合計	15.00																																														
針葉樹林	86.95	77.39																																																		
		158.31	7.46	6.64	23.74																																															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																		

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80 (22) 予測結果 (鳥類: ヒガラ)

種名	ヒガラ																															
選定状況	[全県]RT(繁) [台地・丘陵帯]VU(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																															
一般生態	<p>【分布】留鳥又は漂鳥として屋久島以北に分布する。埼玉県では、低山帯から亜高山帯の森林に留鳥または漂鳥として生息し、繁殖するが、シジュウカラ、ヤマガラより標高の高い山地に多い。</p> <p>【生態】低山帯から亜高山帯の山地の林に生息する。冬は低地のマツやスギ等の針葉樹林に下りてくる。低山帯の針広混交林やブナ林の上部でも繁殖する。樹木の小枝や葉の多い樹冠部で採食し、隠れている昆虫類等を見つけ出して捕らえる他、針葉樹の種子やブナの種子等も食べる。巣は洞穴借用型で、樹洞やキツツキの古巣等を利用する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																															
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で2例、合計3例が確認された(鳴き声)。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は針葉樹林で0.07であった。 ・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。 																															
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
		造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変更率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの変更回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">変更面積(ha)</th> <th colspan="2">変更率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の変更面積とラインセンサス法の結果から合計0.52個体(8.54%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境: 針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>変更面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.95</td> <td>6.09</td> <td>7.46</td> <td>0.52</td> <td>8.54</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)		変更率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境: 針葉樹林					面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	86.95	6.09	7.46	0.52
生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)			変更率(%)																											
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																											
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																											
確認環境: 針葉樹林																																
面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																												
86.95	6.09	7.46	0.52	8.54																												
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																															

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(23) 予測結果 (鳥類: ウグイス)

種名	ウグイス																																																			
選定状況	[全県]RT(繁) [低山帯]NT2(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																			
一般生態	<p>【分布】全国的に繁殖する留鳥。埼玉県では、主に台地・丘陵帯から山地帯・亜高山帯にかけて普通に繁殖し、低地帯においては比較的規模の大きい樹林地や荒川、利根川、江戸川等の河川敷に発達したヨシ原等で少数が繁殖する。</p> <p>【生態】下生えの多い林、ササ藪、草生地、ヨシ原、林縁の茂み等にすみ、市街地や公園や庭の植え込みや生垣にもいる。低木の枝の茂み、ススキの株の中、ササ藪の中等の低い場所に、ササやススキ等のイネ科植物の葉を使って巣をつくる。藪の中を枝渡りしながら、葉の裏面につく昆虫類を捕らえる。冬季は熟したリンゴ、カキ等の果実を食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で76例(変更区域内48例)、合計103例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、笹原及び竹林であった。 ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.91、針葉樹林で0.27、伐採跡地・竹林で1.59、草地で0.48であった。 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																																			
工事の影響	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	予測結果	<p>地形の変更及び施設の有無により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地</td> <td>224.59</td> <td>49.48</td> <td>42.75</td> <td>22.03</td> <td>19.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計30.71個体(21.69%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>93.21</td> <td>21.65</td> <td>19.70</td> <td rowspan="4">合計 30.71 21.69</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>23.48</td> <td>7.46</td> <td>2.01</td> </tr> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>11.45</td> <td>2.21</td> <td>3.51</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>13.44</td> <td>11.43</td> <td>5.49</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	93.21	21.65	19.70	合計 30.71 21.69	針葉樹林	86.95	23.48	7.46	2.01	伐採跡地・竹林	7.20	11.45	2.21	3.51	草地	28.01	13.44	11.43	5.49
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)																																														
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04																																															
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地																																																				
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																															
広葉樹林	102.43	93.21	21.65	19.70	合計 30.71 21.69																																															
針葉樹林	86.95	23.48	7.46	2.01																																																
伐採跡地・竹林	7.20	11.45	2.21	3.51																																																
草地	28.01	13.44	11.43	5.49																																																
土地又は工作物の存在及び供用	地形変更及び施設の有無	<p>地形の変更及び施設の有無により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地</td> <td>224.59</td> <td>49.48</td> <td>42.75</td> <td>22.03</td> <td>19.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計30.71個体(21.69%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>93.21</td> <td>21.65</td> <td>19.70</td> <td rowspan="4">合計 30.71 21.69</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>23.48</td> <td>7.46</td> <td>2.01</td> </tr> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>11.45</td> <td>2.21</td> <td>3.51</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>13.44</td> <td>11.43</td> <td>5.49</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	93.21	21.65	19.70	合計 30.71 21.69	針葉樹林	86.95	23.48	7.46	2.01	伐採跡地・竹林	7.20	11.45	2.21	3.51	草地	28.01	13.44	11.43	5.49
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)																																														
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04																																															
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地																																																				
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																															
広葉樹林	102.43	93.21	21.65	19.70	合計 30.71 21.69																																															
針葉樹林	86.95	23.48	7.46	2.01																																																
伐採跡地・竹林	7.20	11.45	2.21	3.51																																																
草地	28.01	13.44	11.43	5.49																																																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																			

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(24) 予測結果 (鳥類: ヤブサメ)

種名	ヤブサメ																																																							
選定状況	[全県・低山帯]NT2(繁) [台地・丘陵帯]VU(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																							
一般生態	<p>【分布】夏鳥として屋久島以北に渡来する。埼玉県では、丘陵帯から低山帯、山地帯に夏鳥として渡来し、下層植生が豊かな広葉樹林に生息し、繁殖する。</p> <p>【生態】低山や丘陵の雑木林、スギ林等の林床に藪やササが密に生い茂った暗い林に生息する。灌木の茂みや広葉樹林の下草の中を動き回り、植物につく昆虫類を捕らえる。巣は灌木林や落葉広葉樹林の地上につくる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																							
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で10例(改変区域内で7例)、合計12例が確認された(地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であった。 ・ ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.04、針葉樹林で0.21、伐採跡地・竹林で0.53であった。 ・ 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																																							
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																						
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																						
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																						
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、19.27%から15.94%まで軽減される(6.55haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林</td> <td>196.57</td> <td>37.87</td> <td>31.33</td> <td>19.27</td> <td>15.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計3.61個体(13.79%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>4.10</td> <td rowspan="3">合計 26.18</td> <td>21.65</td> <td>0.87</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>18.26</td> <td>7.46</td> <td>1.57</td> </tr> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>3.82</td> <td>2.21</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>合計</td> <td>3.61</td> <td>13.79</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27	15.94	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	4.10	合計 26.18	21.65	0.87	針葉樹林	86.95	18.26	7.46	1.57	伐採跡地・竹林	7.20	3.82	2.21	1.17					合計	3.61	13.79
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																																				
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																																			
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27	15.94																																																			
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林																																																								
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																																			
広葉樹林	102.43	4.10	合計 26.18	21.65	0.87																																																			
針葉樹林	86.95	18.26		7.46	1.57																																																			
伐採跡地・竹林	7.20	3.82		2.21	1.17																																																			
				合計	3.61	13.79																																																		
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																						

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(25) 予測結果（鳥類：オオムシクイ）

種名	オオムシクイ																				
選定状況	DD（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）																				
一般生態	<p>【分布】千島列島の山地の針葉樹林で繁殖し、東南アジアで越冬する。</p> <p>【生態】日本には北海道知床半島に夏鳥として渡来し、繁殖する他、旅鳥として各地に飛来し、市街地や都市公園で見られることがある。5月中下旬の観察例が多い。</p> <p>参考文献：「日本と北東アジアの野鳥」（2016年6月、生態科学出版株式会社）</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（改変区域内で1例）、合計2例が確認された（囀り）。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたが、春季の1例のみの確認であること、本種は本州において旅鳥に区分されることから、渡り期における一時的な飛来であると考えられる。 																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林）の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1317 1422 1406"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.9</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、予測地域の利用は渡り期の一時的なものであることからその影響は小さく、上記のとおり対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の利用可能性は維持されることが考えられる。</p> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.9
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.9	15.38																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80 (26) 予測結果 (鳥類:トラツグミ)

種名	トラツグミ																				
選定状況	[全県・低山帯]NT2(繁) [台地・丘陵帯]VU(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】 留鳥または漂鳥として、本州から九州に分布する。埼玉県では、丘陵帯から亜高山帯までの森林で繁殖する。</p> <p>【生態】 低山から亜高山帯の山地の広葉樹林や針広混交林に生息する。両足を交互にしてはね歩いて昆虫類やミミズ類を捕らえる。木の枝の上にコケ類や枯れ枝で碗型の巣を作る。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の有無	<p>地形の変化及び施設の有無により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、上記のとおり対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の生息は維持されることが考えられる。</p> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(27) 予測結果 (鳥類: ルリビタキ)

種名	ルリビタキ																																												
選定状況	[全県]RT(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																												
一般生態	<p>【分布】留鳥または漂鳥として北海道、本州、四国で繁殖し、冬季は本州以南で越冬する。埼玉県では、秩父山地の山地帯上部から亜高山帯の樹林地に生息し繁殖する。</p> <p>【生態】夏季は亜高山帯の落葉樹林、針広混交林、針葉樹林に生息し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。樹林内の下層部と林床部で採食し、林床の昆虫類等を捕らえる。秋季にはコシアブラ等の小型の果実を好んで食べる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																												
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 冬季調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で5例(改変区域内で5例)、合計8例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びその低木林であった。 ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.18、針葉樹林で0.12であった。 確認が秋季及び冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。 																																												
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																											
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																											
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																											
予測結果	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計4.80(16.63)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>18.44</td> <td rowspan="2">21.65</td> <td rowspan="2">3.90</td> <td rowspan="3">合計 4.80</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>10.43</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>合計 28.87</td> <td>7.46</td> <td>0.90</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	18.44	21.65	3.90	合計 4.80	針葉樹林	86.95	10.43			合計 28.87	7.46	0.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)																																							
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																								
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																																								
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林																																													
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																								
広葉樹林	102.43	18.44	21.65	3.90	合計 4.80																																								
針葉樹林	86.95	10.43																																											
		合計 28.87	7.46	0.90																																									
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																											

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(28) 予測結果 (鳥類: キビタキ)

種名	キビタキ																																																			
選定状況	[全県]RT(繁) [台地・丘陵帯]NT1(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																			
一般生態	<p>【分布】夏鳥としてほぼ全国に渡来する。埼玉県では、主な繁殖地は低山から山地帯である。</p> <p>【生態】平地から山地のよく繁った落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息、繁殖する。1960年代の燃料革命以後、雑木林の萌芽更新が行われなくなり、林が成熟してきたため、樹の間の空間で昆虫を捕らえる本種の生息にとって好適な環境が増えてきた。また、スギやヒノキが混じった針広混交林等にも生息する。林の中層の枝にとまり、フライングキャッチ法で昆虫類を捕らえる。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季、春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で16例、対象事業実施区域内で27例(変更区域内で13例)、合計43例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.27、針葉樹林で0.20であった。 ・ 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																																			
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																		
予測結果	地形改変及び施設の存在 土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計7.34個体(16.29%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="7">確認環境: 広葉樹林、針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th colspan="2">推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>27.66</td> <td rowspan="2">21.65</td> <td rowspan="2">5.85</td> <td rowspan="2">合計</td> <td rowspan="2">16.29</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>17.39</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>45.05</td> <td>7.46</td> <td>1.49</td> <td>7.34</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境: 広葉樹林、針葉樹林							確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)		広葉樹林	102.43	27.66	21.65	5.85	合計	16.29	針葉樹林	86.95	17.39			45.05	7.46	1.49	7.34	
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																																															
確認環境: 広葉樹林、針葉樹林																																																				
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																															
広葉樹林	102.43	27.66	21.65	5.85	合計	16.29																																														
針葉樹林	86.95	17.39																																																		
		45.05	7.46	1.49	7.34																																															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																		

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(29) 予測結果（鳥類：オオルリ）

種名	オオルリ																															
選定状況	[全県]RT(繁) [台地・丘陵帯]CR(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																															
一般生態	<p>【分布】夏鳥として九州以北に渡来する。埼玉県では、秩父山地では普通に生息する。春夏の渡りの時期には低地帯等でも通過記録が多い。</p> <p>【生態】繁殖期には低山から山地の主に溪流沿いの森林に生息する。山道に沿った岩の上や木のへこみ、人家のひさしの下等にコケを積み上げて皿型の巣をつくる。オスは突出した枯れ枝や梢に留まりよく囀る。樹木の梢にとまり、フライングキャッチ法で空中の昆虫類を捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																															
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は針葉樹林で0.04であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																															
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
		造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																													
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から0.30個体(8.62%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境：針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.95</td> <td>3.48</td> <td>7.46</td> <td>0.30</td> <td>8.62</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38	確認環境：針葉樹林					面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	86.95	3.48	7.46	0.30
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)			改変率(%)																											
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																											
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																											
確認環境：針葉樹林																																
面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																												
86.95	3.48	7.46	0.30	8.62																												
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																														

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(30) 予測結果（鳥類：ベニマシコ）

種名	ベニマシコ																																																								
選定状況	[全県]RT(越) [台地・丘陵帯]NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																								
一般生態	<p>【分布】主に北海道で繁殖し、冬は本州以南に渡る。埼玉県では、冬鳥として低地から台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に渡来する。</p> <p>【生態】繁殖期には平地の低木のある草原、川に沿った低木林、林縁、広葉樹の疎林内の藪等にすみ、ハマナス、ニワトコ等の低木の枝に営巣する。越冬季には低地から山地の低木の茂みや林縁、疎林、農耕地、山麓・丘陵地に近い河川のヨシ原等に生息する。昆虫類、果実、種子、木の芽等を食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																								
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域内で8例(改変区域内で6例)が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林の低木林及び高茎草地であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は伐採跡地・竹林で0.80、草地で0.30であった。 ・確認が秋季及び冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。 																																																								
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																							
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																						
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																							
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設が存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、24.96%から23.66%まで軽減される(1.94haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地、農耕地</td> <td>149.15</td> <td>37.22</td> <td>35.29</td> <td>24.96</td> <td>23.66</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から5.20個体(36.72%)が減少する可能性があるが、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残される。また、本種の主要な生息環境である伐採跡地・竹林及び草地について、対象事業実施区域内の伐採跡地・竹林及び草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。これらのことから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>5.76</td> <td>合計</td> <td>2.21</td> <td>1.77</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>8.40</td> <td>合計</td> <td>11.43</td> <td>3.43</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>合計</td> <td>5.20</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td></td> <td>36.72</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地、農耕地	149.15	37.22	35.29	24.96	23.66	確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	伐採跡地・竹林	7.20	5.76	合計	2.21	1.77	草地	28.01	8.40	合計	11.43	3.43					合計	5.20						36.72
		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)																																																	
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																																																				
落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地、農耕地	149.15	37.22	35.29	24.96	23.66																																																				
確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地																																																									
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																																				
伐採跡地・竹林	7.20	5.76	合計	2.21	1.77																																																				
草地	28.01	8.40	合計	11.43	3.43																																																				
				合計	5.20																																																				
					36.72																																																				
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																								

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(31) 予測結果 (鳥類：ホオジロ)

種名	ホオジロ																																																
選定状況	[全県]RT(越) [台地・丘陵帯]NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																
一般生態	<p>【分布】九州以北で繁殖し、冬季には暖地へ移動する留鳥あるいは漂鳥。埼玉県では、低地帯から山地帯まで留鳥として広く分布する。</p> <p>【生態】色々なタイプの樹林の林縁、藪、農耕地や植木畑周辺、河川敷の灌木等に生息するが、低地帯で繁殖に適する環境が減少している。冬は河川敷等で草本類の種子を採食するのがよく見られ、雛の餌としては昆虫類等を捕らえる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で60例(変更区域内で44例)、合計87例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、耕作地、果樹園及び人工構造物であった。 ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.12、伐採跡地・竹林で1.27、草地で1.52であった。 囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。 																																																
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(伐採跡地・竹林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																															
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																															
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																															
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の変更及び施設が存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、29.31%から29.18%まで軽減される(0.06haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐採跡地・竹林、草地、農耕地</td> <td>46.72</td> <td>13.69</td> <td>13.63</td> <td>29.31</td> <td>29.18</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から22.78個体(35.59%)が減少する可能性があるが、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残される。また、本種の主要な生息環境である伐採跡地・竹林及び草地について、対象事業実施区域内の伐採跡地・竹林及び草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。これらのことから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>12.29</td> <td rowspan="3">合計 21.65</td> <td rowspan="3">合計 2.60</td> <td rowspan="3">合計 22.78</td> </tr> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>9.14</td> <td>2.21</td> <td>2.81</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>42.58</td> <td>11.43</td> <td>17.37</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	伐採跡地・竹林、草地、農耕地	46.72	13.69	13.63	29.31	29.18	確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	12.29	合計 21.65	合計 2.60	合計 22.78	伐採跡地・竹林	7.20	9.14	2.21	2.81	草地	28.01	42.58	11.43	17.37
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																													
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																												
伐採跡地・竹林、草地、農耕地	46.72	13.69	13.63	29.31	29.18																																												
確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地																																																	
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																												
広葉樹林	102.43	12.29	合計 21.65	合計 2.60	合計 22.78																																												
伐採跡地・竹林	7.20	9.14				2.21	2.81																																										
草地	28.01	42.58				11.43	17.37																																										
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																															

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80(32) 予測結果（鳥類：アオジ）

種名	アオジ																																																												
選定状況	[全県]DD(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																																												
一般生態	<p>【分布】北海道で夏鳥、本州中部以北で留鳥または漂鳥として繁殖し、冬季は南方や平地に移動する。埼玉県では、冬鳥として渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭等に普通に生息する。</p> <p>【生態】繁殖期は山地帯から亜高山帯の明るい林、草地等に生息し、冬季は平地から低山の林縁や藪、人家の庭等に生息する。藪や草地等の地上で採食し、タデ科、イネ科等の種子、ズミ等の果実を食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																																												
確認状況	<p>・秋季及び冬季調査において、対象事業実施区域外で26例、対象事業実施区域内で47例(改変区域内で35例)、合計73例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、笹原及び竹林であった。</p> <p>・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.61、針葉樹林で0.19、伐採跡地・竹林で5.58、草地で1.50であった。</p> <p>・確認が秋季及び冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。</p>																																																												
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																											
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																											
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																																											
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設が存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地</td> <td>224.59</td> <td>49.48</td> <td>42.75</td> <td>22.03</td> <td>19.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計44.11個体(27.36%)が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されることが考えられる。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</th> </tr> <tr> <th>確認環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>62.48</td> <td rowspan="2">合計</td> <td>21.65</td> <td rowspan="2">合計</td> </tr> <tr> <td>針葉樹林</td> <td>86.95</td> <td>16.52</td> <td>7.46</td> <td>1.42</td> </tr> <tr> <td>伐採跡地・竹林</td> <td>7.20</td> <td>40.18</td> <td rowspan="2">合計</td> <td>2.21</td> <td rowspan="2">44.11</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>42.02</td> <td>11.43</td> <td>17.15</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="2"></td> <td>27.36</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04	確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地						確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	広葉樹林	102.43	62.48	合計	21.65	合計	針葉樹林	86.95	16.52	7.46	1.42	伐採跡地・竹林	7.20	40.18	合計	2.21	44.11	草地	28.01	42.02	11.43	17.15						27.36
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																																																									
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																																																								
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地	224.59	49.48	42.75	22.03	19.04																																																								
確認環境：広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地																																																													
確認環境	面積(ha)	推定個体数	改変面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																																																								
広葉樹林	102.43	62.48	合計	21.65	合計																																																								
針葉樹林	86.95	16.52		7.46		1.42																																																							
伐採跡地・竹林	7.20	40.18	合計	2.21	44.11																																																								
草地	28.01	42.02		11.43		17.15																																																							
					27.36																																																								
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																																											

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-80 (33) 予測結果 (鳥類: クロジ)

種名	クロジ																																	
選定状況	[全県]RT(越) [台地・丘陵帯]NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																																	
一般生態	<p>【分布】留鳥または漂鳥として北海道から本州中部で繁殖し、冬季は本州中部以南に移動する。埼玉県では、山地帯から亜高山帯の林床がスズタケに覆われた森林に生息し、冬季は平地の雑木林等に生息するが、越冬個体数はアオジほど多くない。</p> <p>【生態】夏季は亜高山帯のササ等の下層植生の豊かな樹林地で繁殖し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。北海道では平地林でも繁殖する。ササ藪の下の地上で採食し、よく茂って暗い林床でタデ科、イネ科等の種子をついばむ。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)</p>																																	
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/haであった。 ・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。 																																	
工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																
	建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																
	造成等の施工による影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																																
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変更率は下表のとおり、19.27%から15.94%まで軽減される(6.55haの変更回避)。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">変更面積(ha)</th> <th colspan="2">変更率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林</td> <td>196.57</td> <td>37.87</td> <td>31.33</td> <td>19.27</td> <td>15.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>また下表のとおり、見直し後の変更面積とラインセンサス法の結果から5.52個体(8.58%)が減少する可能性があるが、その値は小さく、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が残ることから、本種の生息は維持されると考えられる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">確認環境: 針葉樹林</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>推定個体数</th> <th>変更面積(ha)</th> <th>推定減少個体数</th> <th>推定減少率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.95</td> <td>64.34</td> <td>7.46</td> <td>5.52</td> <td>8.58</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)		変更率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27	15.94	確認環境: 針葉樹林					面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)	86.95	64.34	7.46	5.52	8.58
生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)				変更率(%)																												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																													
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27	15.94																													
確認環境: 針葉樹林																																		
面積(ha)	推定個体数	変更面積(ha)	推定減少個体数	推定減少率(%)																														
86.95	64.34	7.46	5.52	8.58																														
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																																

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

ウ) 爬虫類

重要な種の特徴を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-81 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種 7 種の予測結果は、表 8-1-4-82 に示すとおりである。

表 8-1-4-81 環境影響要因の選定結果（爬虫類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
	工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
ヒガシニホントカゲ	○	○	○	○	○
ニホンカナヘビ	○	○	○	○	○
ジムグリ	○	○	○	○	○
アオダイショウ	○	○	○	○	○
シマヘビ	○	○	○	○	○
ヤマカガシ	○	○	○	○	○
ニホンマムシ	○	○	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「－」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-82(1) 予測結果（爬虫類：ヒガシニホントカゲ）

種名	ヒガシニホントカゲ																					
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																					
一般生態	<p>【分布】北海道、本州（東海、北陸以東）。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広くに生息している。</p> <p>【生態】庭、畑、道路脇の斜面、林縁部、石垣や山道に生息する。寺社の石垣等、隠れ場所や日光浴に適している環境があれば、都市部の住宅地でもみられる。ミミズ、クモ、ワラジムシ、コオロギを主に食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)</p>																					
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で12例、対象事業実施区域外で3例（改変区域内で3例）、合計15例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び人工構造物であった。 																					
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="430 1429 1420 1541"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.90</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71
		生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																	
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.90	47.39	40.54	20.70	17.71																	
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82 (2) 予測結果 (爬虫類：ニホンカナヘビ)

種名	ニホンカナヘビ																			
選定状況	[全県]RT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯を中心に、低山帯から低地帯まで広く分布している。</p> <p>【生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。草地等の日当たりのよい場所を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地等、人為的な環境にも適応している。主に昆虫やクモを食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)</p>																			
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 全調査において、対象事業実施区域外で9例、対象事業実施区域内で6例(改変区域内で5例)、合計15例が確認された。 確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地及び人工構造物であった。 																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境(草地、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、29.36%から28.91%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="430 1489 1420 1579"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地、農耕地</td> <td>39.53</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>29.36</td> <td>28.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、本種の主要な生息環境である草地について、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82(3) 予測結果（爬虫類：ジムグリ）

種名	ジムグリ																				
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT1 [低山帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで生息しているが、森林環境に依存するため、分布の中心は台地・丘陵帯から山地帯である。</p> <p>【生態】主な生息地は森林であるが山地であればやや開けた場所や耕作地にも生息し、「地潜り」の名の通り地中の穴によく潜る。冷涼な環境を好み、餌資源をネズミ類に依存しているため、面積の広い森林が必要となる。気温の高い夏季は活動が鈍化し、春と秋は活発に活動する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（改変区域内で1例）、合計2例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び低茎草地であった。 																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.9</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82(4) 予測結果（爬虫類：アオダイショウ）

種名	アオダイショウ																					
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																					
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く生息している。</p> <p>【生態】低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。樹上性が強く、鳥類のヒナや卵、ネズミ類を好み、幼蛇はカエルやトカゲを餌とするため、これら餌資源が豊富な里山環境は生息適地といえる。昼行性で人家（特に木造家屋）にもよく棲みつき、人目にふれやすい種である。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																					
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 全調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。 確認環境は、広葉樹林、高茎草地及び低茎草地であった。 																					
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="430 1429 1420 1541"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.9</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71
		生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																	
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71																	
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82(5) 予測結果（爬虫類：シマヘビ）

種名	シマヘビ																				
選定状況	[全県]VU [低山帯、台地・丘陵帯]EN (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯にかけて生息している。</p> <p>【生態】低地から山地まで広く生息し、日当たりのよい水田、山道、草むら、畑地、池沼の周辺等を好む。餌はカエル、トカゲ、鳥類、哺乳類等、食性は広いが、カエルに依存する傾向が強い。昼行性で採餌や日光浴のため水田やその周りでみかけることが多く、人目にふれやすい種である。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例（改変区域内で1例）、合計2例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="430 1456 1420 1579"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.9</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82(6) 予測結果（爬虫類：ヤマカガシ）

種名	ヤマカガシ																				
選定状況	[全県・低山帯]NT1 [台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く生息している。分布の中心は水田や雑木林の多い台地・丘陵帯で、河川敷でもよくみかける。</p> <p>【生態】低地から山地まで広く生息している。水田、河川敷、林地、畑地、湿地、池沼の周辺等、多様な環境でみられる。昼行性であり、採餌や日光浴等の活動は人目につきやすい。食性はカエル類をよく好み、大型のヒキガエルまでも餌にする。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全調査において、対象事業実施区域外で4例、対象事業実施区域内で1例、合計5例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び湿地・たまりであった。 																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.9</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-82(7) 予測結果（爬虫類：ニホンマムシ）

種名	ニホンマムシ																					
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																					
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広くに生息している。分布の中心は水田や雑木林等、多様な環境が存在する台地・丘陵帯で、河川敷でもよくみかける。</p> <p>【生態】低地から山地まで広く生息し、森林とその周辺の水田、湿地、池沼、河川敷から人家近くまで多様な環境でみられる。餌はネズミやカエル類をはじめ、小型の脊椎動物を食べる。主に夜行性であるが、日光浴等、昼間活動することもあるため、身近な環境でもみられる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																					
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。 																					
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>工事関係車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される（6.85haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1456 1420 1574"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地</td> <td>228.9</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>20.70</td> <td>17.71</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71
		生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画	見直し後			当初計画	見直し後																	
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地	228.9	47.39	40.54	20.70	17.71																	
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

1) 両生類

重要な種の特徴を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-83 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。なお、重要な両生類として選定されていたアカガエル属の一種は、ニホンアカガエル及びヤマアカガエルの予測と同様とした。

重要な種 6 種の予測結果は、表 8-1-4-84 に示すとおりである。

表 8-1-4-83 環境影響要因の選定結果（両生類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			供用終了後の影響	
	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
トウキョウサンショウウオ	○	○	○	○	○
アズマヒキガエル	○	○	○	○	○
ニホンアカガエル	○	○	○	○	○
ヤマアカガエル	○	○	○	○	○
トウキョウダルマガエル	○	○	○	○	○
シュレーゲルアオガエル	○	○	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「－」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-84(1) 予測結果 (両生類：トウキョウサンショウウオ)

種名	トウキョウサンショウウオ																				
選定状況	特定第二種国内希少野生動物植物種 (絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律) VU (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) EN (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】本州 (群馬県を除く関東、福島県南部)。埼玉県では、秩父地方、入間地方、比企地方、大里地方等の低山帯から台地・丘陵帯にかけて生息している。</p> <p>【生態】低山や丘陵地の雑木林等に生息し、谷戸に散在する水田やその水路、地下水が出ている水たまり等に2月～4月ごろ産卵する。幼生は水田や流れの緩い水路等に生息し、上陸後は落ち葉等が溜まった林床等で生活するため、隠蔽性が強くめったに人の目に触れることはない。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例4個体、対象事業実施区域内で1例1個体 (改変区域内で1例1個体) が確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域外で1例7個体が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例8卵囊、1例3卵囊、5例2卵囊、対象事業実施区域内で1例1卵囊 (改変区域内で1例1卵囊) が確認された。</p> <p>・確認環境は、細流、湿地・たまり及び水田であった。</p>																				
予測結果	工事用資材等の搬出入	<p>資材運搬等の車両が本種の生息環境 (落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地) の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずるもの、本種の成体は移動能力があまり高くないことから、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講ずることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>また、本種の幼生及び卵は移動ができないもの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが改変されず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。産卵環境の一部には造成等の施工により濁水の流入が考えられるもの、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される (6.67haの改変回避)。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される (図 8-1-4-21 参照)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1496 1423 1585"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>地形の改変及び施設の存在により、本種の幼生及び卵の生息環境の一部は、調整池として利用されるもの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが残される。一方、改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-84(2) 予測結果（両生類：アズマヒキガエル）

種名	アズマヒキガエル																			
選定状況	[全県]NT1 [低山帯]NT2 [台地・丘陵帯]VU (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州（近畿以東）。埼玉県では、亜高山帯から低地帯にかけて、山地から都市公園まで広く分布する。</p> <p>【生態】山地から平地まで幅広く分布し、主に林床で生息している。山地の樹林帯から都市公園や人家近くの緑地でも確認され、様々な環境に適応している。産卵は3月～5月頃に水深の浅い池沼等でおこなわれ、長いひも状の卵塊を産む。産卵期以外は水辺から離れた場所でも確認される。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																			
確認状況	<p>・全調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で10例11個体及び多数、対象事業実施区域内で4例15個体（変更区域内で3例12個体）が確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域外で5例多数、対象事業実施区域内で1例20個体、4例多数（変更区域内で1例20個体、3例多数）が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で2例1卵塊、対象事業実施区域内で2例1卵塊（変更区域内で1例1卵塊）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、開放水域（止水及び流水）、細流、湿地・たまり、泥地及び人工構造物であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>資材運搬等の車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずるものの、本種の成体は移動能力があまり高くないことから、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講ずることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが変更されず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。産卵環境の一部には造成等の施工により濁水の流入が考えられるものの、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の有無	<p>地形の改変及び施設の有無により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される（図 8-1-4-21 参照）。</p> <table border="1" data-bbox="429 1451 1425 1532"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>地形の改変及び施設の有無により、本種の幼生及び卵の生息環境の一部は、調整池として利用されるものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが残される。一方、変更区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-84(3) 予測結果（両生類：ニホンアカガエル）

種名	ニホンアカガエル																				
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]VU（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯から低地帯にかけて広く生息しているが、秩父地方には生息していない。</p> <p>【生態】丘陵地の雑木林の林床、河川敷内の湿地等に生息し、2月～4月頃渾田、湿地、浅い池沼、小さな水たまり等に産卵する。河川敷内の湿地のような不安定な環境にも適応するが、乾燥化や産卵場所の消失等の生息環境の悪化の影響を受けやすい。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・早春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>【幼生】確認はなかった。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例1卵塊が確認された。</p> <p>・確認環境は、湿地・たまりであった。</p> <p>※アカガエル属の一種の確認状況</p> <p>・早春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域外で2例多数、1例50個体、対象事業実施区域内で2例多数（改変区域内で2例多数）が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例10卵塊、1例2卵塊、対象事業実施区域内で1例2卵塊、1例1卵塊（改変区域内で1例2卵塊、1例1卵塊）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事前 資材等の搬出入	<p>資材運搬等の車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事前資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずるものの、本種の成体は移動能力があまり高くないことから、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講ずることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>また、本種の幼生及び卵は移動ができないもの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが改変されず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。産卵環境の一部には造成等の施工により濁水の流入が考えられるものの、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される（図 8-1-4-21 参照）。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>地形の改変及び施設の存在により、本種の幼生及び卵の生息環境の一部は、調整池として利用されるものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが残される。一方、改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-84(4) 予測結果 (両生類：ヤマアカガエル)

種名	ヤマアカガエル																			
選定状況	[全県・低山帯]NT2 [台地・丘陵帯]NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																			
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、秩父地方、入間地方、比企地方、大里地方の山地帯から台地・丘陵帯にかけて生息している。</p> <p>【生態】丘陵地の人家に近い里山から、山地の森林奥深くまで林床や溪流の周りに生息している。産卵期は地域や標高等によって差があり、埼玉埼玉県ではだいたい2月～4月頃である。山林に隣接した湿田、湿地、浅い池沼、小さな水たまり等が産卵に使われる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																			
確認状況	<p>・全調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で7例8個体、対象事業実施区域内で9例9個体(変更区域内で5例5個体)が確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例8個体(変更区域内で1例8個体)が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】確認はなかった。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低茎草地、開放水域(止水及び流水)及び湿地・たまりであった。</p> <p>※アカガエル属の一種の確認状況</p> <p>・早春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域外で2例多数、1例50個体、対象事業実施区域内で2例多数(変更区域内で2例多数)が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で1例10卵塊、1例2卵塊、対象事業実施区域内で1例2卵塊、1例1卵塊(変更区域内で1例2卵塊、1例1卵塊)が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>資材運搬等の車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講ずるものの、本種の成体は移動能力があまり高くないことから、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講ずることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが変更されず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。産卵環境の一部には造成等の施工により濁水の流入が考えられるものの、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の有存在	<p>地形の改変及び施設の有存在により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される(図 8-1-4-21 参照)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1541 1426 1630"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>地形の改変及び施設の有存在により、本種の幼生及び卵の生息環境の一部は、調整池として利用されるものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが残される。一方、変更区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講ずる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-84(5) 予測結果（両生類：トウキョウダルマガエル）

種名	トウキョウダルマガエル		
選定状況	NT（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】本州（東北の太平洋側（岩手県・宮城県・福島県）、関東地方、新潟県と長野県の一部）。埼玉県では、低山帯から低地帯にまで広く分布しているが、分布の中心は低地帯に広がる水田である。</p> <p>【生態】丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等に生息し、水辺からほとんど離れない。産卵は水田の湛水期である5月～7月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存している。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>【幼生】確認はなかった。</p> <p>【卵塊・卵囊】確認はなかった。</p> <p>・確認環境は、水田であった。</p>		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	工事関係車両が本種の生息環境（農耕地）周辺を通過しないことから、移動経路の遮断・阻害、騒音等の影響はほとんどないと予測する。
		建設機械の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音等により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、本種の生息環境は改変区域内には存在せず離れていることから、本種の生息環境への影響はほとんどないと予測する。
		造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、本種の成体の生息環境は改変区域内には存在せず離れていることから、本種の生息環境への影響はほとんどないと予測する。 改変区域外の本種の幼生及び卵の生息環境には濁水の流入は想定されないことから、本種の幼生及び卵の生息環境への影響はないと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の成体の生息環境は改変されないこと、本種の幼生及び卵の生息環境には濁水の流入は想定されないことから、本種の生息環境への影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去後は本種への影響はないと予測する。






表 8-1-4-84(6) 予測結果（両生類：シュレーゲルアオガエル）

種名	シュレーゲルアオガエル																			
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、低山帯から低地帯にまで広く分布しているが、分布の中心は谷戸田が散在する台地・丘陵帯である。</p> <p>【生態】低山から丘陵地にかけて雑木林等に生息している。3月～5月頃に雑木林など生息地に隣接した水田の畦や湿地に泡状の卵塊を産む。主たる産卵場所である水田と雑木林等の生息地双方の場所が必要であり、里山環境に適応した種である。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																			
確認状況	<p>・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例6個体、対象事業実施区域内で6例13個体（改変区域内で5例11個体）が確認された。</p> <p>【幼生】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。</p> <p>【卵塊・卵囊】対象事業実施区域外で9例1卵塊、対象事業実施区域内で4例1卵塊、1例2卵塊（改変区域内で3例1卵塊、1例2卵塊）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地、開放水域（止水）、湿地・たまり及び水田であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	<p>資材運搬等の車両が本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地）の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じるものの、本種の成体は移動能力があまり高くなく、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講ずることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが改変されず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。産卵環境の一部には造成等の施工により濁水の流入が考えられるものの、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の有存在	<p>地形の改変及び施設の有存在により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される（図 8-1-4-21 参照）。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>地形の改変及び施設の有存在により、本種の幼生及び卵の生息環境の一部は、調整池として利用されるものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが残される。一方、改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講ずることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  両生類 重要種確認位置



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-21
影響の回避・低減を図る両生類
の生息地

わ) 昆虫類

重要な昆虫類の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-85 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-86 に示すとおりである。

重要な種 33 種の予測結果は、表 8-1-4-87 に示すとおりである。

表 8-1-4-85 環境影響要因の選定結果（昆虫類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			供用終了後の影響	
	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設が存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
サラサヤンマ	—	—	○	○	○
ヤマサナエ	—	—	○	○	○
ハラビロトンボ	—	—	○	○	○
ヒメツユムシ	—	—	○	○	○
ササキリモドキ	—	—	○	○	○
ヒガシキリス	—	—	○	○	○
ヒサゴクサキリ	—	—	○	○	○
ナキイナゴ	—	—	○	○	○
ヒナバッタ	—	—	○	○	○
アオフキバッタ	—	—	○	○	○
ハネナガイナゴ	—	—	○	○	○
ハルゼミ	—	—	○	○	○
キシハネロウカ	—	—	○	○	○
オオアメンボ	—	—	○	○	○
ヒメゲヘリカミシ	—	—	○	○	○
アスキヘリカミシ	—	—	○	○	○
キハネトノボ	—	—	○	○	○
ヒツメアホミシ	—	—	○	○	○
ケシゲンゴロウ	—	—	○	○	○
コガムシ	—	—	○	○	○
ゲンジボタル	—	—	○	○	○
ヘイケボタル	—	—	○	○	○
トウキョウムシ	—	—	○	○	○
モンスズメバチ	—	—	○	○	○
アホリミカハラトハアブ	—	—	○	○	○
コバントビケラ	—	—	○	○	○
ミヤマセセリ	—	—	○	○	○
ギンイチモンジセリ	—	—	○	○	○
ウラコマガラシジミ	—	—	○	○	○
クモガタヒヨウモン	—	—	○	○	○
アサマイチモンジ	—	—	○	○	○
ミスジチョウ	—	—	○	○	○
オオムラサキ	—	—	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「—」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-86 環境影響要因として選定しなかった理由（昆虫類）

選定しなかった環境影響要因	理由
<p>工事中資材等の搬出入</p>	<p>工事中車両の搬出入に伴う影響として、騒音・振動による生息環境の悪化及び移動経路の遮断・阻害が考えられる。一方、騒音・振動については、既存文献によれば「哺乳類・鳥類等の大型動物では影響が認められるが、小動物の場合、特記するほどの影響はないと考えられる」とされている。また、移動経路の遮断・阻害については、昆虫類で特に重要な影響として、走光性昆虫が車のヘッドライトや夜間照明に多く誘引されることによるロードキルの発生が考えられるが、本事業において夜間工事は実施しないことから、その影響はほとんどないと考えられる。さらに、他の環境影響評価事例においても当該要因は選定されていないこと、工事中資材等の搬出入においては、「工事中資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講じることから、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。</p>
<p>建設機械の稼働</p>	<p>建設機械の稼働に伴う影響として、騒音・振動による生息環境の悪化及び移動経路の遮断・阻害が考えられる。一方、騒音・振動については、既存文献によれば「哺乳類・鳥類等の大型動物では影響が認められるが、小動物の場合、特記するほどの影響はないと考えられる」とされている。さらに、他の環境影響評価事例においても当該要因は選定されていないこと、建設機械の稼働においては、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることから、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。</p>

注：参考文献：「自然環境アセスメント指針」（1990年、朝倉書店）
「第1回 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会 議事録」（北海道空知総合振興局ホームページ）

表 8-1-4-87(1) 予測結果（昆虫類：サラサヤンマ）

種名	サラサヤンマ																				
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、分布の中心は台地・丘陵帯で、低地帯にもわずかながら産地が残されている。</p> <p>【生態】樹林に囲まれた平地～丘陵地の低湿地に生息する。幼虫は落ち葉等に覆われた湿った地面の窪みの水たまりで、水面近くに重なっている落ち葉の間にはりつくように潜んでいる。産卵は湿地の縁に近い茂みの下のササ等の枯れ葉が堆積した湿った土やコケの間、半ば腐った柔らかい倒木等に行う。未熟個体はやや薄暗い樹林に移って生活する。</p> <p>参考文献：「原色 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」（1999年、北海道大学図書刊行会） 「ネイチャーガイド 日本のトンボ」（2012年、文一総合出版）</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体、対象事業実施区域内で1例1個体（改変区域内で1例1個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																		
		建設機械の稼働	-																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の成体の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(2) 予測結果 (昆虫類: ヤマサナエ)

種名	ヤマサナエ																					
選定状況	NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																					
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、現在はさいたま市や東松山市等に局地的な生息地が知られる。</p> <p>【生態】主に平地か低山地の上流域の比較的緩やかな流れに生息する。幼虫は砂泥底の挺水植物の根際や植物性沈積物がある淵やよどみで砂泥中に浅く潜ったり、植物性沈積物の下に隠れて生活している。未熟個体は雑木林等でしばらく過ごす。</p> <p>参考文献:「原色 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」(1999年、北海道大学図書刊行会)</p>																					
確認状況	<p>【昆虫類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認環境は、広葉樹林であった。 <p>【底生動物調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で27個体が確認された。 																					
工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																				
	建設機械の稼働	-																				
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>本種の幼虫の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																				
予測結果	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成虫の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1400 1425 1489"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table>					生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																	
			当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																	
土地又は工作物の存在及び供用	<p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																					
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																					

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(3) 予測結果（昆虫類：ハラビロトンボ）

種名	ハラビロトンボ									
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）									
一般生態	<p>【分布】北海道（南部）、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて分布は広い。</p> <p>【生態】主に平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する腐食栄養型の沼沢地や湿地に生息する。休耕田でもみられる。幼虫は挺水植物の根際や、植物性沈積物の下等に隠れたり柔らかい泥の中に浅く潜ったりして生活する。未熟個体は羽化水域からあまり離れず、多くは隣接する草地で生活する。</p> <p>参考文献：「原色 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」（1999年、北海道大学図書刊行会）</p>									
確認状況	<p>・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫（死骸含む）】対象事業実施区域外で6例28個体、対象事業実施区域内で5例13個体（変更区域内で5例13個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び湿地・たまりであった。</p>									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—							
		建設機械の稼働	—							
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：止水、水田）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設が存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" data-bbox="555 1176 1294 1238"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積 (ha)</th> <th>改変面積 (ha)</th> <th>改変率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域：止水、水田</td> <td>3.39</td> <td>0.45</td> <td>13.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)	開放水域：止水、水田	3.39	0.45
生息環境		面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)						
開放水域：止水、水田	3.39	0.45	13.27							
太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(4) 予測結果（昆虫類：ヒメツユムシ）

種名	ヒメツユムシ																				
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯低山帯の広葉樹林及びその林縁に生息している。</p> <p>【生態】照葉樹林帯から冷温帯下部の樹林林縁やマント群落に生息する。夜行性でよく飛翔し、灯火にも飛来する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・秋季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で3例3個体（改変区域内で2例2個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、草地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、26.93%から25.36%まで軽減される（2.05haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1355 1425 1444"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、草地</td> <td>130.44</td> <td>35.13</td> <td>33.08</td> <td>26.93</td> <td>25.36</td> </tr> </tbody> </table>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、草地	130.44	35.13	33.08	26.93	25.36
生息環境			面積 (ha)	改変面積 (ha)				改変率 (%)													
	当初計画	見直し後		当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、草地	130.44	35.13	33.08	26.93	25.36																
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(5) 予測結果（昆虫類：ササキリモドキ）

種名	ササキリモドキ																			
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、主に台地・丘陵帯、低山帯の広葉樹林の林縁やクズ群落等に生息している。</p> <p>【生態】低山の明るい林縁の低木や草地に生息する。夜行性でよく飛翔し、灯火にも飛来する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																			
確認状況	<p>・秋季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（改変区域内で1例1個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設存在	<p>地形の改変及び施設存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、草地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、27.04%から25.64%まで軽減される（1.94haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1355 1425 1473"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地</td> <td>137.64</td> <td>37.22</td> <td>35.29</td> <td>27.04</td> <td>25.64</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地	137.64	37.22	35.29	27.04
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、伐採跡地・竹林、草地	137.64	37.22	35.29	27.04	25.64															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(6) 予測結果（昆虫類：ヒガシキリギリス）

種名	ヒガシキリギリス																				
選定状況	[全県]NT1 [低山帯、台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州（西限は岡山県）。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて広く分布している。</p> <p>【生態】畑の脇や河川敷の明るい草原のやや深い草むらに生息する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で6例18個体が確認された。</p> <p>【幼虫】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例2個体（変更区域内で1例2個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び耕作地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境（草地、農耕地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の変更率は下表のとおり、29.36%から28.91%まで軽減される（0.18haの変更回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1384 1423 1473"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">変更面積 (ha)</th> <th colspan="2">変更率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地、農耕地</td> <td>39.53</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>29.36</td> <td>28.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	変更面積 (ha)		変更率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91
生息環境			面積 (ha)	変更面積 (ha)				変更率 (%)													
	当初計画	見直し後		当初計画	見直し後																
草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91																
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(7) 予測結果（昆虫類：ヒサゴクサキリ）

種名	ヒサゴクサキリ								
選定状況	[全県]DD（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）								
一般生態	<p>【分布】本州（太平洋側は茨城県以南）、四国、九州。埼玉県では、2007年に北本自然観察公園で初めて発見され、以降、当地では継続して生息が確認されている。2014年には川島町でも発見された。荒川流域には同様の環境が点在するため自然分布とみられる。</p> <p>【生態】メダケやマダケ等のタケササ類の藪に生息し、若芽を食べる。大きな河川や海岸に近い地域で見つかることが多い。夜間、タケ上に上がって若芽を食害する。</p> <p>参考文献：「日本産直翅類標準図鑑」（2016年、学研プラス）</p>								
確認状況	<p>・ 秋季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫（死骸含む）】対象事業実施区域内で1例1個体（改変区域内で1例1個体）が確認された。</p> <p>・ 確認環境は、竹林であった。</p>								
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—						
		建設機械の稼働	—						
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>						
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形改変及び施設存在</p> <table border="1" data-bbox="491 1417 1362 1476"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積 (ha)</th> <th>改変面積 (ha)</th> <th>改変率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アズマネザサ群落、竹林</td> <td>5.74</td> <td>1.40</td> <td>24.39</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)	アズマネザサ群落、竹林	5.74	1.40
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)						
アズマネザサ群落、竹林	5.74	1.40	24.39						
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。また、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行うが、本種の生息環境は創出されないと想定されることから、本種の生息環境は地形の改変及び施設存在時と同様になると予測する。</p>								

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(8) 予測結果 (昆虫類: ナキイナゴ)

種名	ナキイナゴ																				
選定状況	[全県・低山帯]NT1 [台地・丘陵帯]VU (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、亜高山帯と山地帯での生息状況は良好であるが、地帯区分の多くで生息環境への圧迫が見られる。</p> <p>【生態】日当たりのよい、乾燥した草地に生息する。ススキのような丈の高い草の群落を好む。</p> <p>参考文献:「日本産直翅類標準図鑑」(2016年、学研プラス)</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された。</p> <p>・確認環境は、低茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																		
		建設機械の稼働	-																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から40.78%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1323 1425 1413"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>41.42</td> <td>40.78</td> </tr> </tbody> </table> <p>本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(9) 予測結果 (昆虫類: ヒナバッタ)

種名	ヒナバッタ																				
選定状況	[全県・低山帯]NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、県北部に偏った分布域を持ち、造成地や河川敷の乾燥した低茎草地で多く見られるが、南部で局地的。</p> <p>【生態】日当たりのよい草地に生息する。乾燥した裸地に近い低茎草地を好むが、より発達した草地でも生息しており、適応環境は幅広い。親は春季から出現し、年2化であろうと思われる。オスはよく発音する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																		
		建設機械の稼働	-																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変更及び施設が存在により、本種の生息環境(草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から40.78%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1355 1423 1444"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>41.42</td> <td>40.78</td> </tr> </tbody> </table> <p>本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(10) 予測結果（昆虫類：アオフキバツタ）

種名	アオフキバツタ																				
選定状況	[全県]RT [台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州（青森県～中部地方）。埼玉県では、山地帯や低山帯では広範囲に分布し、台地・丘陵帯で局地的となる。</p> <p>【生態】低山地の広葉樹林林縁に生息する。フキバツタ類の中では特に明るい環境を好み、主に日当たりの良い灌木上や下草上に生息するが、多産地では時に草原や道沿いの草本上に群生する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体（改変区域内で1例1個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、草地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、26.93%から25.36%まで軽減される（2.05haの改変回避）。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、草地</td> <td>130.44</td> <td>35.13</td> <td>33.08</td> <td>26.93</td> <td>25.36</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、草地	130.44	35.13	33.08	26.93	25.36
生息環境			面積 (ha)	改変面積 (ha)				改変率 (%)													
	当初計画	見直し後		当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、草地	130.44	35.13	33.08	26.93	25.36																
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(11) 予測結果（昆虫類：ハネナガイナゴ）

種名	ハネナガイナゴ																				
選定状況	[全県]NT1 [台地・丘陵帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】本州（北限は秋田県・岩手県南部）、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、古くは各地に広く分布していたものが1960年ごろを境に急速に減少した。近年になり各地で生息地及び生息個体数が増加している状況である。</p> <p>【生態】水田やその周辺、湿性の草地に生息する。イネ科植物を食害し、よく飛ぶ。</p> <p>参考文献：「日本産直翅類標準図鑑」（2016年、学研プラス）</p>																				
確認状況	<p>・秋季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で3例3個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地、低茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（草地、農耕地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、29.36%から28.91%まで軽減される（0.18haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1384 1425 1473"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地、農耕地</td> <td>39.53</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>29.36</td> <td>28.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91
	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(12) 予測結果（昆虫類：ハルゼミ）

種名	ハルゼミ									
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）									
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、台地帯から低山帯に生息している。</p> <p>【生態】4月から6月上旬にかけて松林にすみ、アカマツ林の分布と一致していると言われる。日本産セミ科の中では最も早く出現する。合唱性があるが樹上の梢にいて肉眼での確認は難しい。松林の外に出ることはなく局所的に発生する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>									
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で2例2個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</p>									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—							
		建設機械の稼働	—							
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>								
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形変化及び施設の存在</p> <table border="1" data-bbox="491 1355 1364 1417"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>変更面積(ha)</th> <th>変更率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アカマツ亜高木、アカマツ植林</td> <td>0.78</td> <td>0.13</td> <td>16.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)	変更率(%)	アカマツ亜高木、アカマツ植林	0.78	0.13	16.38
生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)	変更率(%)							
アカマツ亜高木、アカマツ植林	0.78	0.13	16.38							

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(13) 予測結果 (昆虫類: キズジハネビロウカ)

種名	キズジハネビロウカ																				
選定状況	NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯から山地にかけて生息が確認されている。</p> <p>【生態】山地に生息するが寄主植物等、詳しい生態は不明である。成虫は7月から10月にかけて現れる。林縁の植物に見ることもあるが、個体密度は低い。植物体に静止する個体よりむしろ灯火に飛来した本種の観察例の方が多。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された(ライトトラップ)。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設存在	<p>地形の改変及び施設存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、21.80%から18.65%まで軽減される(6.55haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1384 1425 1503"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地</td> <td>217.39</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>21.80</td> <td>18.65</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地	217.39	47.39	40.54	21.80	18.65
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地	217.39	47.39	40.54	21.80	18.65																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(14) 予測結果（昆虫類：オオアメンボ）

種名	オオアメンボ										
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）										
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、大宮台地から低山帯にかけて広く分布するが低標高地の生息地は少ない。</p> <p>【生態】池沼等の止水域や河川の緩流に生息し、日陰となる水面を好む。生息環境として、直射日光が当たらないような木陰の水面の存在が重要である。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>										
確認状況	<p>【昆虫類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。 <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例13個体及び多数、対象事業実施区域内で4例13個体及び多数(変更区域内で4例13個体及び多数)が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認環境は、開放水域(止水及び流水)であった。 <p>【底生動物調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で5個体が確認された。 										
工事の実施	工事用資材等の搬出入	-									
	建設機械の稼働	-									
	造成等の施工による一時的な影響	<p>本種の生息環境(開放水域、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>									
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形の改変及び施設存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域(流水)が広く存在し、本種の発生も対象事業実施区域外で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" data-bbox="555 1301 1294 1364"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>改変率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域</td> <td>1.25</td> <td>0.45</td> <td>36.43</td> </tr> </tbody> </table> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)	開放水域	1.25	0.45	36.43
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)							
開放水域	1.25	0.45	36.43								
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。</p>										

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(15) 予測結果 (昆虫類: ヒメトゲヘリカメムシ)

種名	ヒメトゲヘリカメムシ																				
選定状況	NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、平地から山地帯にかけての地表や雑草間根際に生息環境をもつ。</p> <p>【生態】海岸から山地まで生息範囲は広い。比較的乾燥した草原の地表や雑草間の根際等の環境を好む習性がある。分布範囲は広いが個体密度は決して高くなく、ヘリカメムシ科の中でも採集例は少ないと種と言える。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された。</p> <p>・確認環境は、低茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																		
		建設機械の稼働	-																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から40.78%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1323 1425 1413"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>41.42</td> <td>40.78</td> </tr> </tbody> </table> <p>本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(16) 予測結果 (昆虫類: アズキヘリカメムシ)

種名	アズキヘリカメムシ																				
選定状況	NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																				
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、台地・丘陵帯から低山帯にかけて生息が確認されている。</p> <p>【生態】ダイズやアズキ等、マメ科作物の害虫として知られているが被害は少ない。農耕地や周辺の草原等に生息する。寄主植物上にいることが多く、明るく開けた場所で飛翔する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・秋季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された。</p> <p>【幼虫】確認はなかった。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	-																		
		建設機械の稼働	-																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の使用	<p>地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境(草地、農耕地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、29.36%から28.91%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1" data-bbox="427 1368 1425 1458"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地、農耕地</td> <td>39.53</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>29.36</td> <td>28.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91
	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
草地、農耕地	39.53	11.60	11.43	29.36	28.91																
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																				

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(17) 予測結果 (昆虫類: キバネツノトンボ)

種名	キバネツノトンボ																
選定状況	CR (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																
一般生態	<p>【分布】本州、九州。埼玉県では、熊谷市、深谷市、上里町、滑川町、鳩山町、長瀬町、秩父市、小鹿野町で記録がある。</p> <p>【生態】県内における自然状態での主な生息環境は大きく2つに分けられる。一つは「河川沿いの河原及びその周辺部の背の低い草地」で、もう一つは「森林内が土砂崩れ等で崩壊し、一時的に生じた背の低い草地～ススキ原」である。成虫は5～6月に発生する。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例4個体(改変区域内で2例4個体)が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—														
		建設機械の稼働	—														
予測結果	土地又は工作物の存在及び供用	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>														
		地形改変及び施設の使用	<p>地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境(草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から40.78%まで軽減される(0.18haの改変回避)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>41.42</td> <td>40.78</td> </tr> </tbody> </table> <p>本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地	28.01	11.60	11.43
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)				改変率(%)											
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後												
草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78												

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(18) 予測結果 (昆虫類：ヒトツメアオゴミムシ)

種名	ヒトツメアオゴミムシ																
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県、台地・丘陵帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、古くは旧浦和市 (現さいたま市)、寄居町、皆野町で記録され、嵐山町、美里町、鳩山町と現在でも記録がある。</p> <p>【生態】丘陵地～低山帯の森林内の開けた林床、裸地、畑等に生息する。特に水路に近い桑畑等の環境を好む。主に夜行性で地表面を素早く走り回り、越冬は崖の土中で行われる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「レッドデータブックあいち2020」(愛知県ホームページ)</p>																
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体 (改変区域内で1例1個体) が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。 																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—														
		建設機械の稼働	—														
		造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。														
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形改変及び施設の存在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、農耕地</td> <td>198.75</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.00</td> <td>14.65</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>太陽光パネル等の撤去・廃棄</p> <p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、農耕地	198.75	35.78	29.12	18.00
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)			改変率 (%)												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後												
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、農耕地	198.75	35.78	29.12	18.00	14.65												

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(19) 予測結果（昆虫類：ケシゲンゴロウ）

種名	ケシゲンゴロウ									
選定状況	NT（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） EN（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）									
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、低山帯から台地・丘陵帯にかけて古い記録が見られ、かつては比較的広範囲に分布していたものと考えられる。</p> <p>【生態】止水性であり、低山帯から低地帯までの水生植物の豊富な湖沼やため池、水田、休耕田、湿地等に生息する。特に浅瀬で多く、水田や休耕田等では個体数も多い。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>									
確認状況	<p>・夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された(ライトトラップ)。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—							
		建設機械の稼働	—							
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：止水、水田）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" data-bbox="555 1176 1294 1238"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>変更面積(ha)</th> <th>変更率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域：止水、水田</td> <td>3.39</td> <td>0.45</td> <td>13.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の変更等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	変更面積(ha)	変更率(%)	開放水域：止水、水田	3.39	0.45
生息環境		面積(ha)	変更面積(ha)	変更率(%)						
開放水域：止水、水田	3.39	0.45	13.27							
太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(20) 予測結果（昆虫類：コガムシ）

種名	コガムシ									
選定状況	DD（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）									
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。</p> <p>【生態】止水性でため池、水田、湿地等に生息し、不安定な水域に突発的に出現する。繁殖は水田で行われ、6月～7月頃には多数の幼虫が見られる。7月中旬頃には新成虫が出現し、成虫は灯火にも飛来する。</p> <p>参考文献：「愛媛県レッドデータブック 2014」（愛媛県ホームページ）</p>									
確認状況	<p>・夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（変更区域内で1例1個体）が確認された（ライトトラップ）。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—							
		建設機械の稼働	—							
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：止水、水田）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積 (ha)</th> <th>変更面積 (ha)</th> <th>変更率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域：止水、水田</td> <td>3.39</td> <td>0.45</td> <td>13.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の変更等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	変更面積 (ha)	変更率 (%)	開放水域：止水、水田	3.39	0.45
生息環境		面積 (ha)	変更面積 (ha)	変更率 (%)						
開放水域：止水、水田	3.39	0.45	13.27							
太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(21) 予測結果（昆虫類：ゲンジボタル）

種名	ゲンジボタル		
選定状況	VU（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、県内各所に数えきれないほどの記録があり、昔は旧大宮市（現さいたま市）や川越市にも生息していたようである。</p> <p>【生態】山地帯から低地帯にかけて、河川や水田の用水路等の流水環境周辺に生息し、成虫は5月下旬から7月中旬にかけて出現するが地域ごとの発生期間は比較的短期で、夜間に水路周辺を発光しながら飛翔する。メスはほとんど動かず、水辺でじっとしている。幼虫は流水中に生息し、カワニナやタニシ等の水生巻貝類を捕食する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	<p>【昆虫類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で17例73個体が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地、竹林、開放水域（流水）及び水田であった。 <p>【底生動物調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で2個体が確認された。 		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
	土地又は工作物の存在及び供用	造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
		地形改変及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-87(22) 予測結果（昆虫類：ヘイケボタル）

種名	ヘイケボタル									
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）									
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、県内各所に数えきれないほどの記録があり、昔は旧浦和市や旧大宮市（現さいたま市）、草加市や蕨市、新座市等の平地帯でも確認されていた。</p> <p>【生態】山地帯から低地帯にかけて、池沼や水田周辺の湿地帯、河川のよどみ等に生息し、成虫は5月上旬から8月下旬頃まで出現する。発生期間も長い。夜間に水辺の周辺を発光しながら飛翔する。幼虫は流れの穏やかあるいは止水の水中に生息し、カワナやタニシ類、ヒメモノアラガイなどを捕食する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>									
確認状況	<p>【昆虫類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で12例90個体が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認環境は、低茎草地、開放水域（流水）及び耕作地であった。 <p>【底生動物調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早春季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で1個体が確認された。 									
予測結果	工事用資材等の搬出入	-								
	工事の実施	建設機械の稼働	-							
	造成等の施工による一時的な影響	<p>本種の生息環境（開放水域、水田）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>								
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域（流水）が広く存在し、本種の発生も対象事業実施区域外で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積(ha)</th> <th>改変面積(ha)</th> <th>改変率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域、水田</td> <td>3.39</td> <td>0.45</td> <td>13.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)	開放水域、水田	3.39	0.45
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)	改変率(%)							
開放水域、水田	3.39	0.45	13.27							
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。</p>								

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(23) 予測結果（昆虫類：トウキョウムネビロオオキノコムシ）

種名	トウキョウムネビロオオキノコムシ																				
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】本州、伊豆諸島（三宅島、御蔵島）、九州、対馬、口永良部島。埼玉県では、旧浦和市（現さいたま市）の大門、神川町の金鑽神社から記録がある。</p> <p>【生態】低山帯から低地帯にかけて、河川林や神社の境内に残る照葉樹林等に生息し、ネンドタケを食べることで知られるが局所的である。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された（ライトトラップ）。</p> <p>・確認環境は、針葉樹林であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹であり広葉樹の枯木に発生するネンドタケも一様に分布していると考えられることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.97%から21.14%まで軽減される（1.88haの改変回避）。また、本種の幼虫の食草・食樹であるネンドタケも残される範囲に一様に分布していると考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="427 1384 1425 1473"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>23.53</td> <td>21.65</td> <td>22.97</td> <td>21.14</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97	21.14																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(24) 予測結果（昆虫類：モンズズメバチ）

種名	モンズズメバチ																
選定状況	DD（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）																
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。</p> <p>【生態】平地、低山地の夏緑広葉樹林等に生息し、樹洞、屋根裏や戸袋内部、鳥の巣箱等、閉鎖空間に営巣する。本種の獲物の大部分は各種のセミ類によって占められている。セミの少ない時期にはトンボ類等、各種大型昆虫も捕らえる。</p> <p>参考文献：「群馬県レッドデータブック 2012」（群馬県ホームページ）</p>																
確認状況	<p>・ 秋季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫（死骸含む）】対象事業実施区域内で 1 例 1 個体が確認された（ベイトトラップ）。</p> <p>・ 確認環境は、針葉樹林であった。</p>																
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—														
		建設機械の稼働	—														
		造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。														
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>地形改変及び施設の存在</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)			改変率 (%)												
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後												
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38												
太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。																

注：生息環境の面積等の数字は小数点第 3 位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(25) 予測結果（昆虫類：アシボソミケハラブトハナアブ）

種名	アシボソミケハラブトハナアブ																				
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、秩父市と嵐山町で記録されている。</p> <p>【生態】夏に台地・丘陵帯、低山帯、山地帯で発生する。明るい林縁等で各種植物に訪花する。森林に生息する種で、幼虫は朽木で育つと思われる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、低茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の幼虫の生息場所である朽木も一様に分布していると考えられることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。その影響は小さいと考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。また、本種の幼虫の生息場所である朽木も一様に分布していると考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="427 1355 1425 1444"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(26) 予測結果（昆虫類：コバントビケラ）

種名	コバントビケラ		
選定状況	[全県]NT [低山帯、台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州、与那国島。埼玉県では、は低山帯の秩父地方から台地・丘陵帯の狭山付近までの荒川水系中流域から比較的まとまった数の産地が知られている。</p> <p>【生態】幼虫は主に流水性であり、水質の良い河川中・下流域の緩流部や流水の流れ込む湖沼に生息し、落ち葉が堆積した部分や抽水植物の根際、石の陰等から得られる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	<p>【昆虫類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季調査において、以下のとおり確認された。 <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認環境は、針葉樹林及び高茎草地であった。 <p>【底生動物調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で28個体が確認された。 		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
	土地又は工作物の存在及び供用	造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
		地形改変及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-87(27) 予測結果（昆虫類：ミヤマセセリ）

種名	ミヤマセセリ																			
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、丘陵や低山帯～山地帯にやや普通に生息している。</p> <p>【生態】平地～山地の落葉広葉樹林に生息する。丘陵地～低山地の手入れのされた日当たりのより雑木林でよく見られる。食草・食樹はコナラ、クヌギ、ミズナラ等のブナ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																			
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、低茎草地であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の変化及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉広葉樹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、24.38%から22.41%まで軽減される（1.90haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び変更区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1" data-bbox="427 1355 1425 1444"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>96.09</td> <td>23.43</td> <td>21.53</td> <td>24.38</td> <td>22.41</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38	22.41															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(28) 予測結果 (昆虫類：ギンイチモンジセセリ)

種名	ギンイチモンジセセリ																			
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) [全県、台地・丘陵帯]NT2 [低山帯]CR (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、河川流域の草地、休耕田跡等、草原に広く分布しているが産地は局地的である。</p> <p>【生態】平地～山地の乾性草原や、河川堤防や農地周辺の草地、採草地、山地の稜線沿いの草原に生息する。食草・食樹はススキ、チガヤ、オオアブラススキ、ヨシ等のイネ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」(2012年、誠文堂新光社)</p>																			
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(変更区域内で1例1個体)が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																			
工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
	建設機械の稼働	—																		
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から40.78%まで軽減される(0.18haの改変回避)。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び変更区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>草地</td> <td>28.01</td> <td>11.60</td> <td>11.43</td> <td>41.42</td> <td>40.78</td> </tr> </tbody> </table> <p>本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。</p> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	草地	28.01	11.60	11.43	41.42
生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
草地	28.01	11.60	11.43	41.42	40.78															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(29) 予測結果（昆虫類：ウラゴマダラシジミ）

種名	ウラゴマダラシジミ																			
選定状況	[全県]VU [台地・丘陵帯]NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地と台地の境界から低山帯に広く分布していたが、現在は大宮台地で絶滅した。山地ではやや普通に見られる。</p> <p>【生態】平地～丘陵地では谷戸や湿地周辺、低山地～山地では河川や溪谷沿いの広葉樹林に生息する。食草・食樹はイボタノキ、ミヤマイボタ、オオバイボタ、ムラサキハシドイ等のモクセイ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																			
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変更及び施設の存在	<p>地形の変更及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.97%から21.14%まで軽減される（1.88haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び変更区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1" data-bbox="427 1384 1425 1473"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林</td> <td>102.43</td> <td>23.53</td> <td>21.65</td> <td>22.97</td> <td>21.14</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林	102.43	23.53	21.65	22.97	21.14															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(30) 予測結果（昆虫類：クモガタヒョウモン）

種名	クモガタヒョウモン																				
選定状況	NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低山帯を中心に分布する種で、低地での記録は少ない。大宮台地でも絶滅したと考えられる。丘陵部から低山帯には産地がある。</p> <p>【生態】丘陵地～山地の森林及びその周辺の草地。溪流や林道に沿った林縁部、疎林等でよく見られる。食草・食樹はタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、ミヤマスミレ等のスミレ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																				
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体（改変区域内で2例2個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																				
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																		
		建設機械の稼働	—																		
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、21.80%から 18.65%まで軽減される（6.55haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び改変区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1" data-bbox="427 1417 1425 1534"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地</td> <td>217.39</td> <td>47.39</td> <td>40.54</td> <td>21.80</td> <td>18.65</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地	217.39	47.39	40.54	21.80
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																	
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地	217.39	47.39	40.54	21.80	18.65																
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(31) 予測結果（昆虫類：アサマイチモンジ）

種名	アサマイチモンジ																			
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT2 [低山帯]VU（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】本州。埼玉県では、イチモンジチョウよりも分布はやや平野部に偏る傾向があり、また生息地はやや局所的である。</p> <p>【生態】平地～低山地の明るい樹林環境に生息する。雑木林や農地の林縁部、低木林の他、河川堤防の藪でよく見られる。食草・食樹はスイカズラ、タニウツギ等のスイカズラ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																			
確認状況	<p>・夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、高茎草地であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り変更区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設存在	<p>地形の変化及び施設存在により、本種の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、19.27%から15.94%まで軽減される（6.55haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び変更区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林</td> <td>196.57</td> <td>37.87</td> <td>31.33</td> <td>19.27</td> <td>15.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林	196.57	37.87	31.33	19.27	15.94															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(32) 予測結果（昆虫類：ミスジチョウ）

種名	ミスジチョウ																			
選定状況	[全県]NT2 [台地・丘陵帯]VU（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、現在は丘陵地から低山帯にかけて広い範囲で見られるが、分布はやや局地的。</p> <p>【生態】関東以北では平地～山地、中部以西では主に山地の溪谷の落葉広葉樹林に生息する。溪谷沿いには食草のカエデ類が多い。この他、栽培植物に伴って都市周辺で見られることもある。食草・食樹はイロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジ、コハウチワカエデ等のカエデ科。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																			
確認状況	<p>・春季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体（改変区域内で1例1個体）が確認された。</p> <p>・確認環境は、人工構造物であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉広葉樹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、24.38%から22.41%まで軽減される（1.90haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び改変区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>96.09</td> <td>23.43</td> <td>21.53</td> <td>24.38</td> <td>22.41</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38	22.41															
	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-87(33) 予測結果（昆虫類：オオムラサキ）

種名	オオムラサキ																			
選定状況	NT（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） [全県]VU [台地・丘陵帯]NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																			
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、広く分布していたが、東部低地の記録は少ない。</p> <p>【生態】主に丘陵地～低山地の落葉広葉樹林に生息する。里山の雑木林や河畔林でよく見られる。山地のブナ林でも見ることがある。食草・食樹はエノキ、エゾエノキ（ニレ科）。</p> <p>参考文献：「フィールドガイド 日本のチョウ」（2012年、誠文堂新光社）</p>																			
確認状況	<p>・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。</p> <p>【成虫（死骸含む）】対象事業実施区域外で2例2個体、対象事業実施区域内で3例3個体（改変区域内で2例2個体）が確認された。</p> <p>【幼虫】対象事業実施区域外で1例5個体が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林であった。</p>																			
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
		建設機械の稼働	—																	
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種の食草・食樹も確認されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境（落葉広葉樹林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、24.38%から22.41%まで軽減される（1.90haの改変回避）。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及び改変区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>96.09</td> <td>23.43</td> <td>21.53</td> <td>24.38</td> <td>22.41</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>			生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38
生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後															
落葉広葉樹林	96.09	23.43	21.53	24.38	22.41															
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

か) 魚類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-88 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-89 に示すとおりである。

重要な種 4 種の予測結果は、表 8-1-4-90 に示すとおりである。

表 8-1-4-88 環境影響要因の選定結果（魚類）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
	工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
ドジョウ	—	—	○	○	○
ホトケドジョウ	—	—	○	○	○
ギバチ	—	—	○	○	○
ムサシノジュズカケハゼ	—	—	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「—」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-89 環境影響要因として選定しなかった理由（魚類）

選定しなかった環境影響要因	理由
工事用資材等の搬出入	工事用資材等の搬出入及び建設機械の稼働に伴う影響としては、騒音・振動による生息環境の悪化が考えられる。一方、水生動物への騒音等による逃避・減少の影響については、既存文献によれば「空気と水中のインピーダンス（抵抗）の差が極めて大きいため、空中から到来した音波のエネルギーの大部分が反射され、空中の音が水中に伝わることはほとんどない」とされており、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。
建設機械の稼働	

注：参考文献「水生動物の音の世界」（平成 17 年、竹村暁）

表 8-1-4-90(1) 予測結果（魚類：ドジョウ）

種名	ドジョウ		
選定状況	NT（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）		
一般生態	<p>【分布】日本各地に分布する。</p> <p>【生態】河川の中下流域、用水路等の流れの緩やかな泥底にすみ、初夏に水田等浅い湿地に侵入して産卵する。腸呼吸を行うことができる。雑食性。</p> <p>参考文献：「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・湛水魚類」（2015年、環境省） 「山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚」（2019年、山と溪谷社）</p>		
確認状況	・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で22個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	<p>本種の生息環境（開放水域：流水、農耕地）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の使用	<p>地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>
太陽光パネル等の撤去・廃棄		<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。</p>	

表 8-1-4-90(2) 予測結果（魚類：ホトケドジョウ）

種名	ホトケドジョウ		
選定状況	EN（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） CR（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】本州（青森県を除く東北地方～三重県・京都府・兵庫県）。埼玉県では、荒川水系、新河岸川流域の支川、利根川水系の小山川、女堀川等に生息する。</p> <p>【生態】河川の中流域に主に生息する。小河川の源流付近や湧水が残り、サワガニの生息や、水生植物が自生するような水域が適している。仔稚魚は全長約2cmまで浮遊・遊泳生活を送る。底生の小動物を中心とする雑食性。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚」(2019年、山と溪谷社)</p>		
確認状況	・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で27個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の使用	地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-90(3) 予測結果（魚類：ギバチ）

種名	ギバチ		
選定状況	VU（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）		
一般生態	<p>【分布】 関東・東北地方に分布する。</p> <p>【生態】 河川の中粒から上流下部域で、砂礫底で抽水植物のある、水の清涼な流水域に生息する。幼魚は農業用水の水路を生息場所として利用していることもある。夜間に活動して小型魚類、水生昆虫、エビ等を捕食する。産卵期は6月～8月。石の下面や、抽水植物の根元等の間隙に卵を産む。定住性が強く、移動範囲は大きくない。参考文献：「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・湛水魚類」（2015年、環境省）</p>		
確認状況	・ 春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で10個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の使用	地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-90(4) 予測結果（魚類：ムサシノジュズカケハゼ）

種名	ムサシノジュズカケハゼ		
選定状況	EN（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について）		
一般生態	<p>【分布】 関東地方の那珂川、利根川、荒川、多摩川の 4 水系の中流域に分布する。</p> <p>【生態】 河川中流域の流れの緩い淵や、湧水のある河川敷のたまりに生息する。湧水のあるワンドやたまり、流れの緩い淵の泥底に穴を掘って産卵する。仔稚魚から幼魚は抽水植物の周り等で浮遊していることが多く、成長とともに底生生活に移行する。動物食性でユスリカ幼虫等を食べる。</p> <p>参考文献：「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・湛水魚類」（2015 年、環境省） 「山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚」（2019 年、山と溪谷社）</p>		
確認状況	・ 秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 1 個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

キ) 底生動物

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-91 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-92 に示すとおりである。

重要な種 8 種の予測結果は、表 8-1-4-93 に示すとおりである。なお、昆虫類の現地調査で確認されたヤマサナエ、オオアメンボ、コバントビケラ、ゲンジボタル及びヘイケボタルの予測結果は、昆虫類で示したとおりである。

表 8-1-4-91 環境影響要因の選定結果（底生動物）

種名	環境影響要因				
	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
	工事中資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
ナミウズムシ	—	—	○	○	○
ヌカエビ	—	—	○	○	○
サワガニ	—	—	○	○	○
コシボソヤンマ	—	—	○	○	○
アオサナエ	—	—	○	○	○
ヒメサナエ	—	—	○	○	○
ムナグロナガレトビケラ	—	—	○	○	○
ホソバトビケラ	—	—	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「—」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-92 環境影響要因として選定しなかった理由（底生動物）

選定しなかった環境影響要因	理由
工事中資材等の搬出入	<p>水生動物への騒音による逃避・減少の影響については、既存文献によれば、「空気と水中のインピーダンス（抵抗）の差が極めて大きいため、空中から到来した音波のエネルギーの大部分が反射され、空中の音が水中に伝わることはほとんどない」とされており、影響はほとんどない又はないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。</p> <p>なお、昆虫類（コシボソヤンマ、アオサナエ、ヒメサナエ、ムナグロナガレトビケラ、ホソバトビケラ）の成虫において、環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-86 に示したとおりである。</p>
建設機械の稼働	

注：参考文献「水生動物の音の世界」（平成 17 年、竹村暁）

表 8-1-4-93(1) 予測結果（底生動物：ナミウズムシ）

種名	ナミウズムシ		
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]LP（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、山地帯では普通に見られる。平野部での生息地が局所的で少ない。</p> <p>【生態】低地帯から山地帯にかけて広く分布し、水質のBOD値が3ppm以下の清水環境下に生息し、湧水や河川の源流付近、清流の波立つ瀬の部分に見られる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で16個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	地形の改变及び施設の存在により、本種の生息環境は改变されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改变区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改变等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改变はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-93(2) 予測結果 (底生動物：ヌカエビ)

種名	ヌカエビ									
選定状況	[全県]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))									
一般生態	<p>【分布】本州 (伊勢湾東部から新潟県村上を結ぶ線から以東および以北)。埼玉県では、荒川水系、利根川水系とその支派川及び用水や池沼等に生息する。</p> <p>【生態】河川中下流域、農業用水、池沼に生息する。汽水域には生息していない。スジエビより上流に生息することもあり、上限は標高 200m 以上のヤマメ生息域に達することもある。繁殖力が強く、河川では水際帯の植生が豊かな場所に多く生息している。護岸改修された水路では泥が堆積し、水際植生帯が復元すると二次的な生息空間として定着することも多い。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>									
確認状況	・ 早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 2 個体が確認された。									
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—							
		建設機械の稼働	—							
		造成等による一時的な影響	本種の生息環境 (開放水域) の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域 (流水) が広く存在し、繁殖も流水環境で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>生息環境</th> <th>面積 (ha)</th> <th>改変面積 (ha)</th> <th>改変率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放水域 (止水)</td> <td>1.25</td> <td>0.45</td> <td>36.43</td> </tr> </tbody> </table> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)	開放水域 (止水)	1.25	0.45
生息環境		面積 (ha)	改変面積 (ha)	改変率 (%)						
開放水域 (止水)	1.25	0.45	36.43							
太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。									

注：生息環境の面積等の数字は小数点第 3 位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-93(3) 予測結果（底生動物：サワガニ）

種名	サワガニ		
選定状況	[全県]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州（南部）、南西諸島。埼玉県では、荒川水系、利根川水系とその流域の支派川等に分布している。</p> <p>【生態】河川の中下流域で湧泉がある場所や河川やその支川等に分布している。雑食性で歩行力があり、河川から細流や湧泉、さらに水辺から離れた湿り気のある場所にも生息する。餌の種類は成長段階によって異なるが、基本的には雑食性で、ミミズ、ヨコエビ類、貝類等の他、水生昆虫やガの幼虫、魚の死体、落葉等も食べる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「川の生物図典」(1996年、山海堂)</p>		
確認状況	・ 早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 11 個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の使用	本種の主な生息環境は開放水域（流水）であるが、水量が少ない湿地に近いような沢にも生息しており、地形の改変及び施設の使用によりそれらの環境の一部が消失する。一方、本種については、「生態系」においてタヌキの餌資源調査としてその密度を調査しており、その分布をみると改変の程度は小さく、本種の生息環境は広く残される（生態系 図 8-1-6-24 参照）。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-93(4) 予測結果（底生動物：コシボソヤンマ）

種名	コシボソヤンマ																				
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																				
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、これまでに低地帯からの記録はない。丘陵帯から低山帯の清流にやや局地的に生息する。</p> <p>【生態】主に平地や丘陵地の木陰の多い流れに生息する。幼虫は水中に露出した植物の細い根束や挺水植物の根際等につかまって生活している。未熟個体は近くの林に移って生活する。</p> <p>参考文献：「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」（1999年、北海道大学図書刊行会）</p>																				
確認状況	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で14個体が確認された。																				
工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																			
	建設機械の稼働	—																			
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>本種の幼虫の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																			
予測結果	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成虫の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1323 1425 1413"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>				生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)																
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後																
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38																
土地又は工作物の存在及び供用	太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																			

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-93 (5) 予測結果 (底生動物: アオサナエ)

種名	アオサナエ																		
選定状況	[全県、台地・丘陵帯]NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))																		
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、これまで低地帯からは未記録。分布の中心は丘陵帯から低山帯を流れる河川中流域。</p> <p>【生態】主に平地や丘陵地・低山地の清流に生息する。琵琶湖や山中湖等のような大湖にもみられる。幼虫は比較的流れの速い川の砂礫底や波砕湖岸の浮石の下や砂礫の隙間等にひそんで生活している。未熟個体は樹林で生活する。</p> <p>参考文献:「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」(1999年、北海道大学図書刊行会)</p>																		
確認状況	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で12個体が確認された。																		
工事の実施	工事用資材等の搬出入	—																	
	建設機械の稼働	—																	
	造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることで、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>本種の幼虫の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																	
予測結果	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成虫の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積(ha)</th> <th colspan="2">改変面積(ha)</th> <th colspan="2">改変率(%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table>		生息環境	面積(ha)	改変面積(ha)		改変率(%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
		生息環境	面積(ha)			改変面積(ha)		改変率(%)											
	当初計画			見直し後	当初計画	見直し後													
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38														
土地又は工作物の存在及び供用	<p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることで、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>																		
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																		

注: 生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-93(6) 予測結果（底生動物：ヒメサナエ）

種名	ヒメサナエ																	
選定状況	NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）																	
一般生態	<p>【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯や大宮台地からはこれまで未記録である。</p> <p>【生態】主に山間の溪流や河川の上・中流域に生息する。幼虫は比較的流れの速い瀬の石下や隙間にひそんで生活している。未熟個体は樹林で生活する。</p> <p>参考文献：「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」（1999年、北海道大学図書刊行会）</p>																	
確認状況	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で3個体が確認された。																	
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—															
		建設機械の稼働	—															
		造成等の施工による一時的な影響	<p>造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び変更区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。</p> <p>本種の幼虫の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>															
土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の成虫の生息環境（落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林）の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される（6.67haの改変回避）。</p> <table border="1" data-bbox="427 1294 1425 1384"> <thead> <tr> <th rowspan="2">生息環境</th> <th rowspan="2">面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変面積 (ha)</th> <th colspan="2">改変率 (%)</th> </tr> <tr> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> <th>当初計画</th> <th>見直し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林</td> <td>189.37</td> <td>35.78</td> <td>29.12</td> <td>18.90</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。</p> <p>改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。</p>	生息環境	面積 (ha)	改変面積 (ha)		改変率 (%)		当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38
	生息環境	面積 (ha)			改変面積 (ha)		改変率 (%)											
当初計画			見直し後	当初計画	見直し後													
落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189.37	35.78	29.12	18.90	15.38													
太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>																	

注：生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-93(7) 予測結果（底生動物：ムナグロナガレトビケラ）

種名	ムナグロナガレトビケラ		
選定状況	[全県]NT [低山帯、台地・丘陵帯]NT2（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、山地帯から台地・丘陵帯にかけて記録されている。</p> <p>【生態】幼虫は流水性であり、主に水質の良い河川中流域を中心に生息し、瀬の河床の礫間や砂中から得られる。生息に際して河床が有機物で覆われていないことが重要となる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で35個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の使用	地形の改変及び施設の使用により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

表 8-1-4-93(8) 予測結果（底生動物：ホソバトビケラ）

種名	ホソバトビケラ		
選定状況	[全県]NT [低山帯、台地・丘陵帯]NT1（埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)）		
一般生態	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、は低山帯から台地・丘陵帯にかけて記録されている。</p> <p>【生態】主に流水性であり、水質の良い河川上・中流域の流れが緩やかで河床に砂が溜まった場所に生息する。流水が流れ込む湖沼にも生息することがある。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)</p>		
確認状況	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で3個体が確認された。		
予測結果	工事の実施	工事用資材等の搬出入	—
		建設機械の稼働	—
		造成等の施工による一時的な影響	本種の生息環境（開放水域：流水）の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。
太陽光パネル等の撤去・廃棄		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。	

(オ) 評価の結果

7) 環境影響の回避、低減に係る評価

工所用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響を回避・低減するための環境保全措置は、表 8-1-4-94 に示すとおりである。

これらの環境保全措置を講じることにより、工所用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響は小さいものと考えられること、ハチクマについては人工代替巢の設置により非改変区域へ営巣地の誘導する代償措置を講ずることから、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているものと評価する。

なお、猛禽類であるハチクマ、サシバ及びノスリについては、予測に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討することとする。また、本事業による影響は小さいと予測するものの、本事業の類似事例等を踏まえた上で、以下の観点から予測評価の妥当性を検証する事後調査を実施することとする。

- ・ 保全措置として消滅した分のどの程度までを緑化や植樹で代償できるのか、生態的にどこまで代償効果があるのかについて確認する事後調査。

表 8-1-4-94(1) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因	環境保全措置の内容
<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工所用資材の搬出入 ・ 建設機械の稼働 ・ 造成等の施工による一時的な影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事関係車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。 ・ 工所用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・ 工所用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・ 工所用資材等の運搬車両のアイドリングストップを徹底する。 ・ 建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する。 ・ 造成計画を見直し、搬入する土量を低減する。 ・ 車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・ 建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・ 建設機械のアイドリングストップを徹底する。 ・ 計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。 ・ 建設機械の整備、点検を徹底する。 ・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・ 樹木の伐採等を行う場合、段階的な実施により周辺環境への動物の移動を促す。 ・ 工事工程を調整し、猛禽類であるサシバ、ノスリ、ハチクマの繁殖への影響に配慮する。 ・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。 ・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・ 造成箇所は、速やかに転圧等を施す。

表 8-1-4-94(2) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因	環境保全措置の内容
<p>土地又は工作物の存在及び供用</p> <p>・地形の改変及び施設の存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした動物種の生息環境を保全する。 ・フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる。 ・低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する。 ・太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する。 ・緑地環境周辺に止まり木等を設置し、猛禽類等の採食環境としての利用を促す。 ・側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する。 ・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する。
<p>・太陽光パネル等の撤去・廃棄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・撤去・廃棄関係車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・撤去・廃棄関係車両の整備、点検を適切に実施する。 ・撤去・廃棄関係車両のアイドリングストップを徹底する。 ・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・解体機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・解体機械のアイドリングストップを徹底する。 ・計画的かつ効率的な工事計画を検討し、解体機械の集中稼働を避ける。 ・解体機械の整備、点検を徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努める。